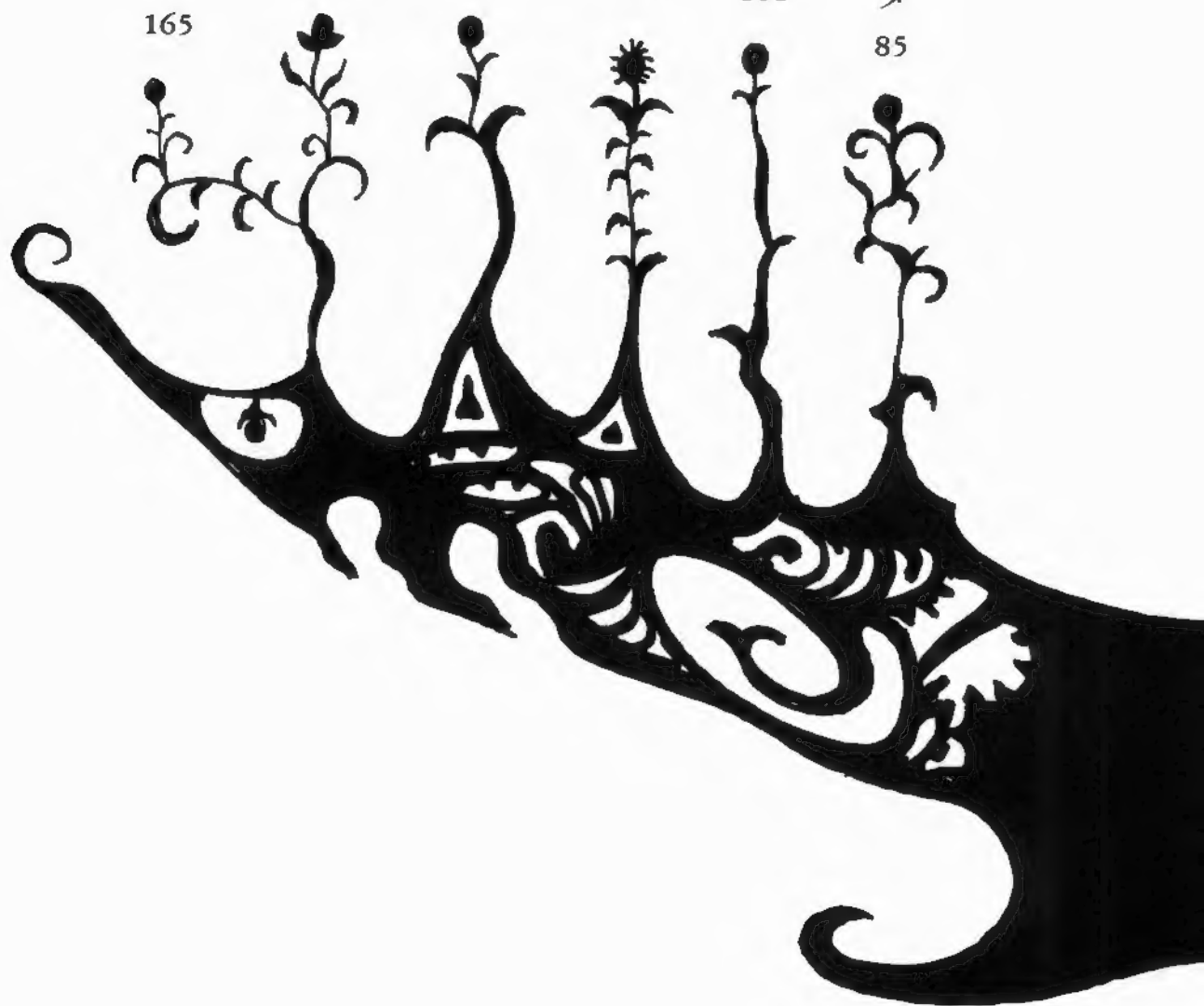
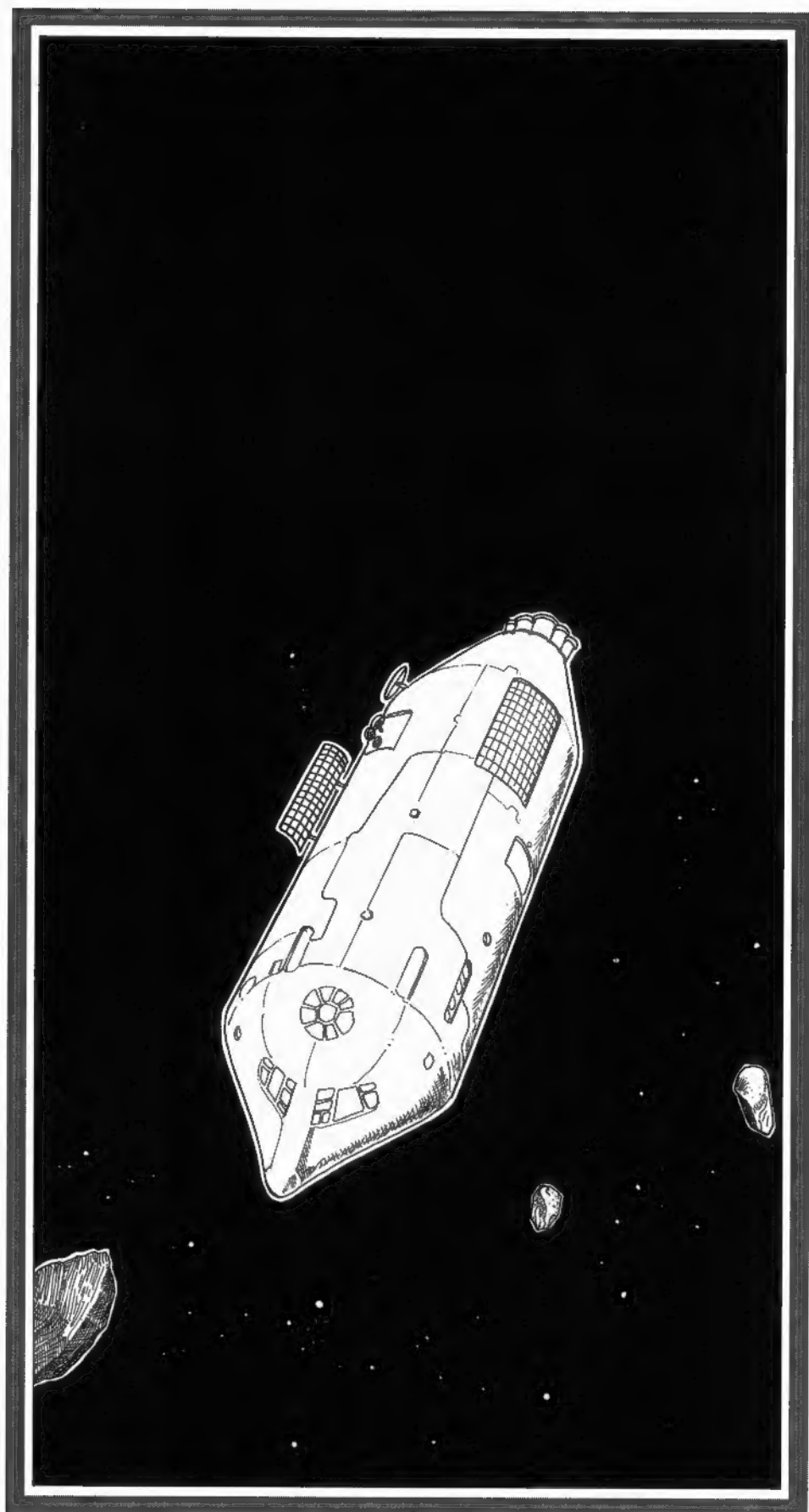
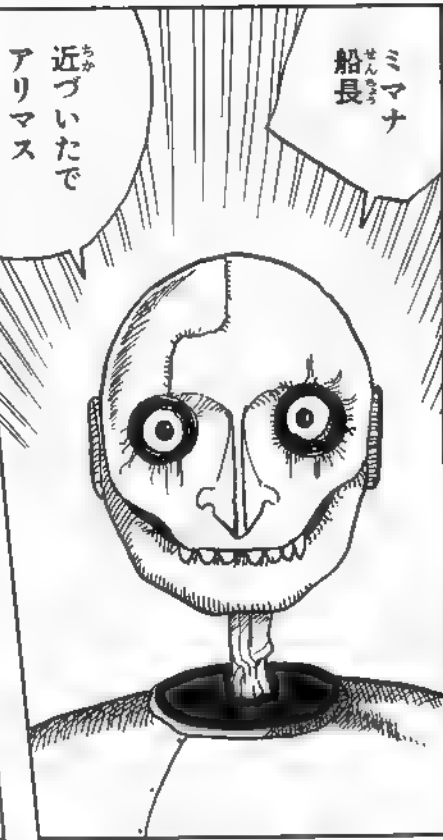
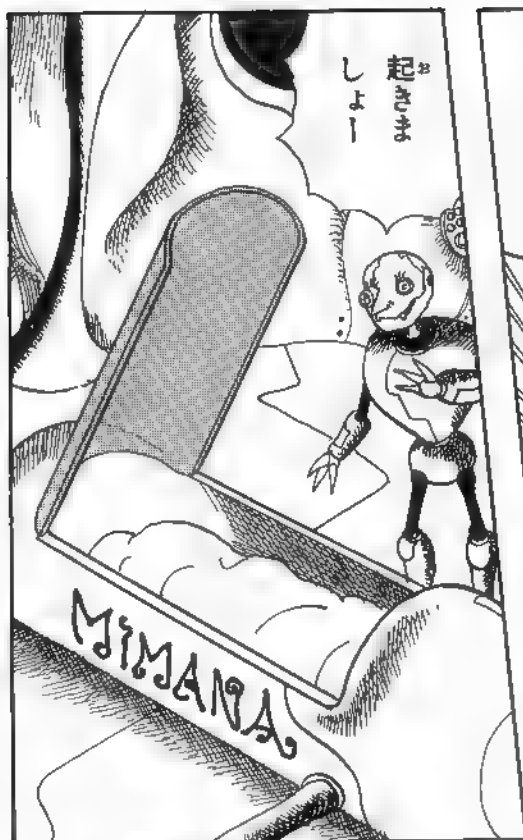
惑星ミマナ
1
ますむら・ひろし

CARTA（カルタ）

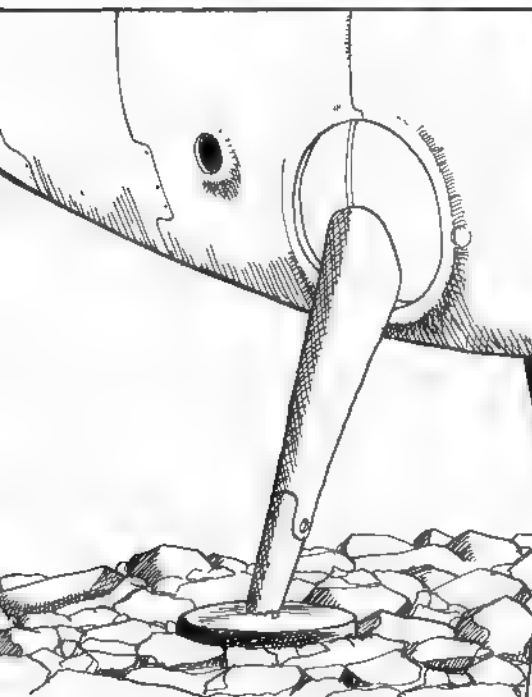
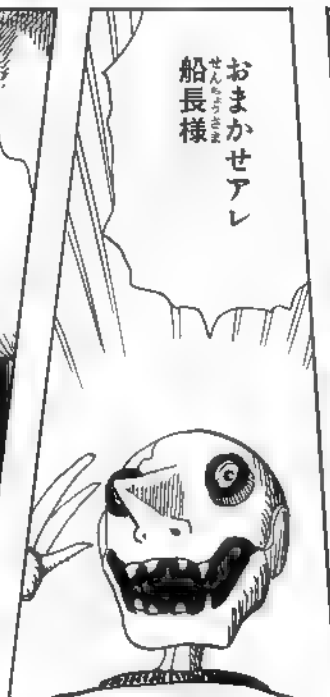
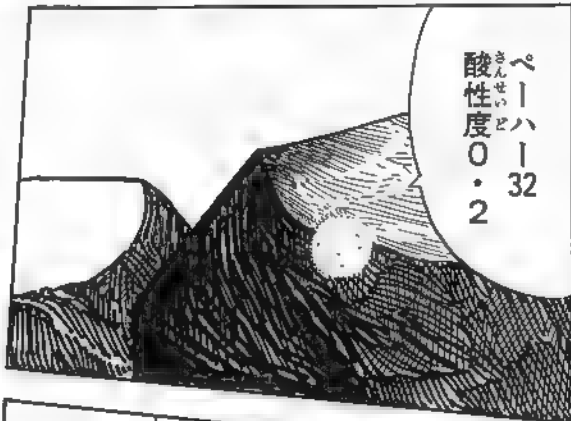
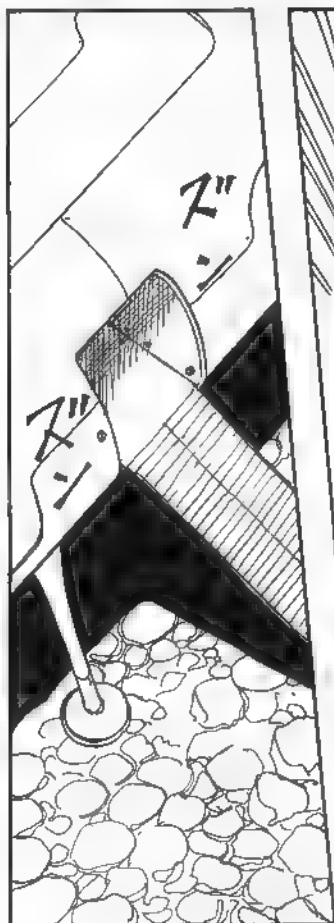
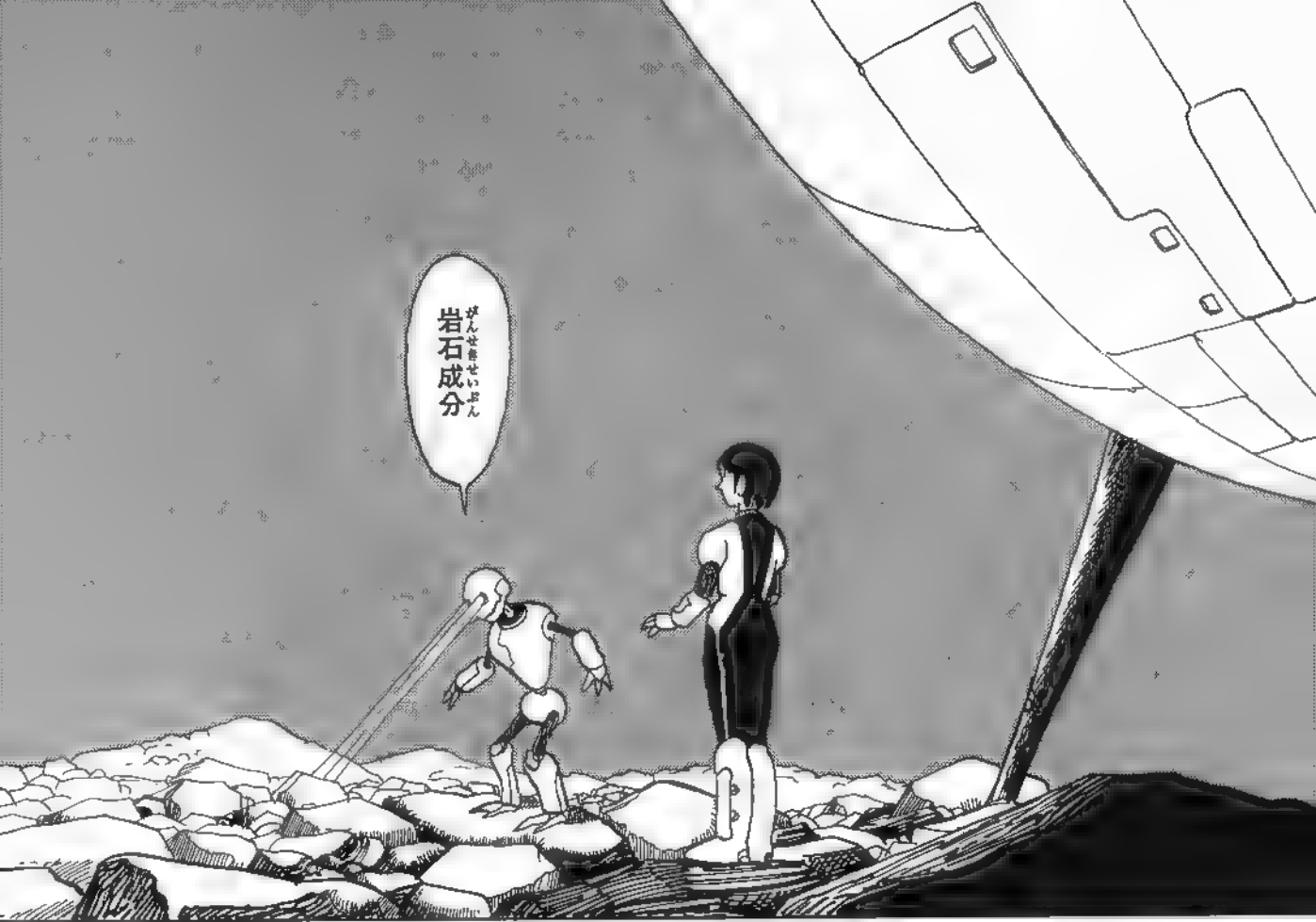
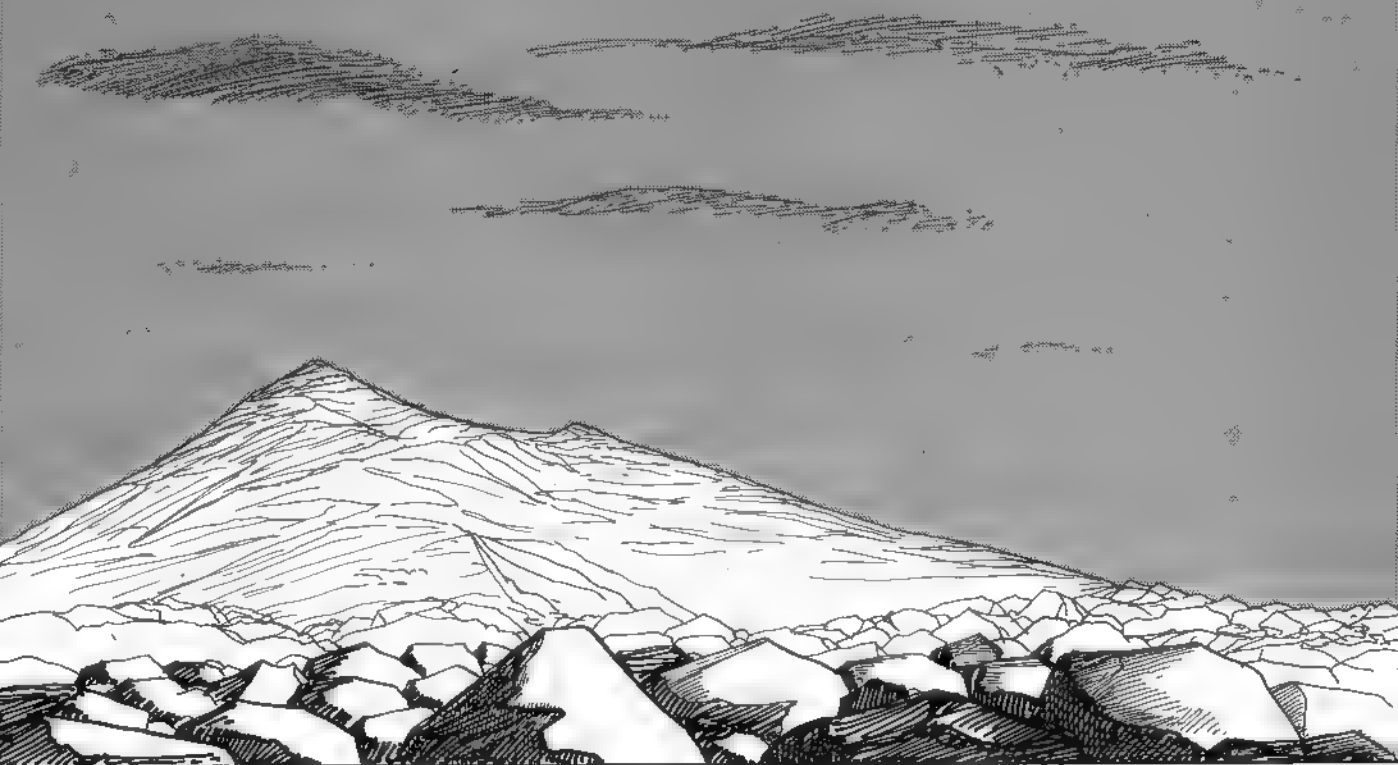
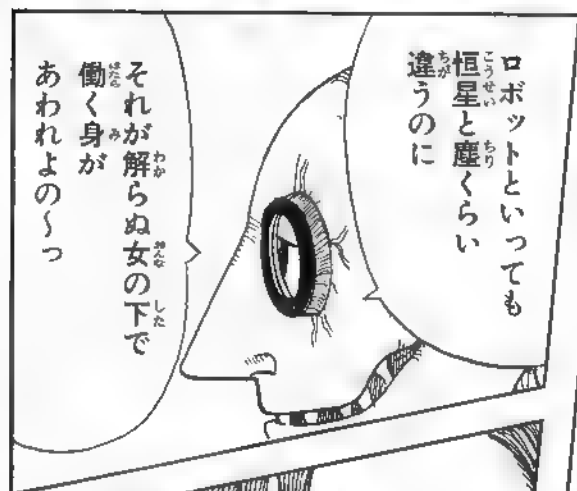
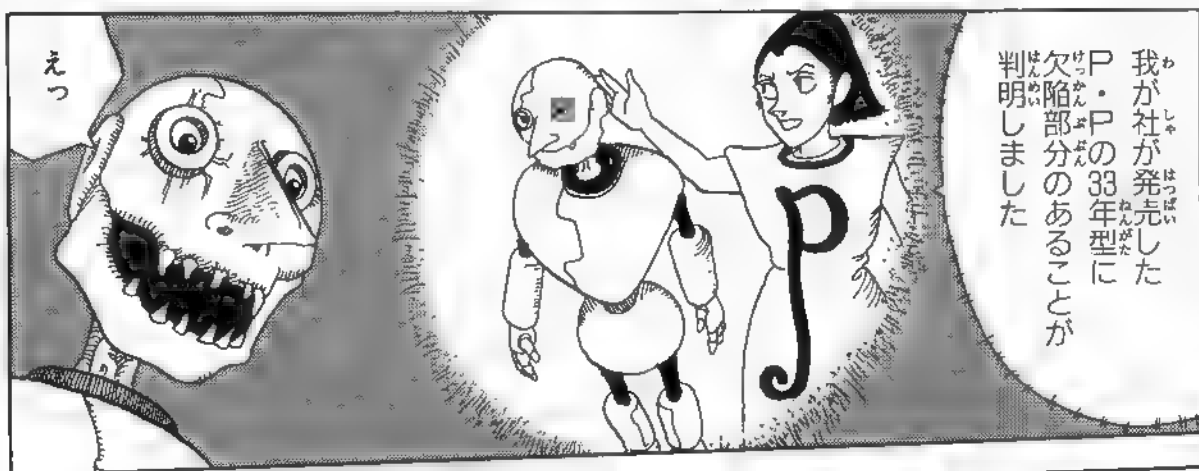
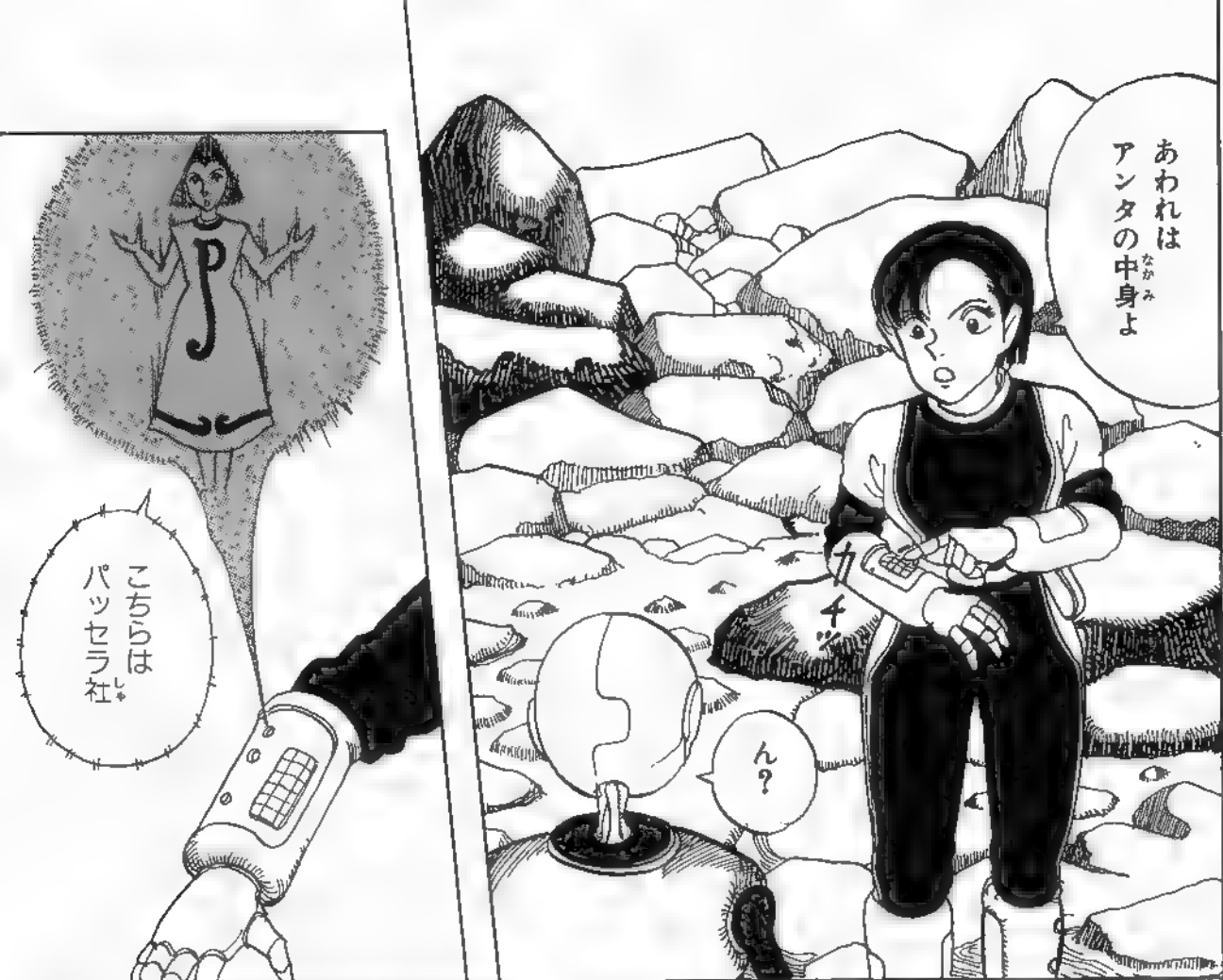
1 ファースト・コンタクト

ミマナ船長
近づいたでアリマス
起きましょー
MIMANA

…ああ
頭の中が…まだ凍ってるみたいだ…
!

これが私の星…

りゅうこつ座α星第6惑星

こんなガラクタ星を大金はたいて買うなんて

船長の頭脳はお寒い北極圏製

岩石成分

ペーハー32
酸性度0・2

楽勝だな

土壌改良しなくても
粉砕すれば使える

ダンプ

ズン

ズン

ズン

この地点から南東2km四方を耕作地にして

了解…船長サン

のろのろ
もたもた
農耕ザウルス
ウイイイイイッ
ズガガガ

ちょっと!!
ギンドリ

同じロボットでしょう
どうしてそんな言い方するの!!
船長…

あいつは6等級
私は1等級33年型ですよ

ロボットといっても恒星と塵くらい違うのに
それが解らぬ女の下で働く身があわれよの〜っ
何ですって!!

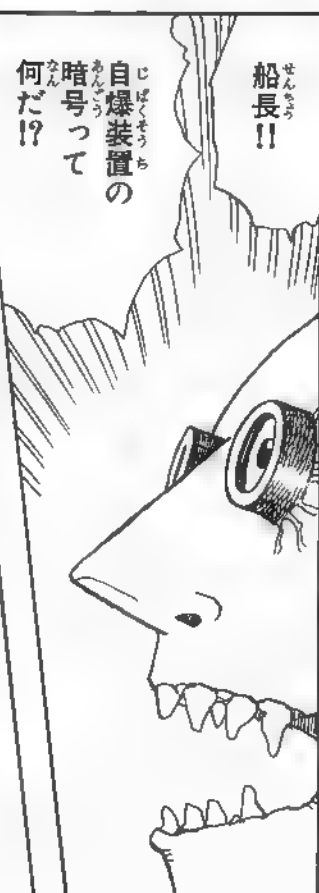
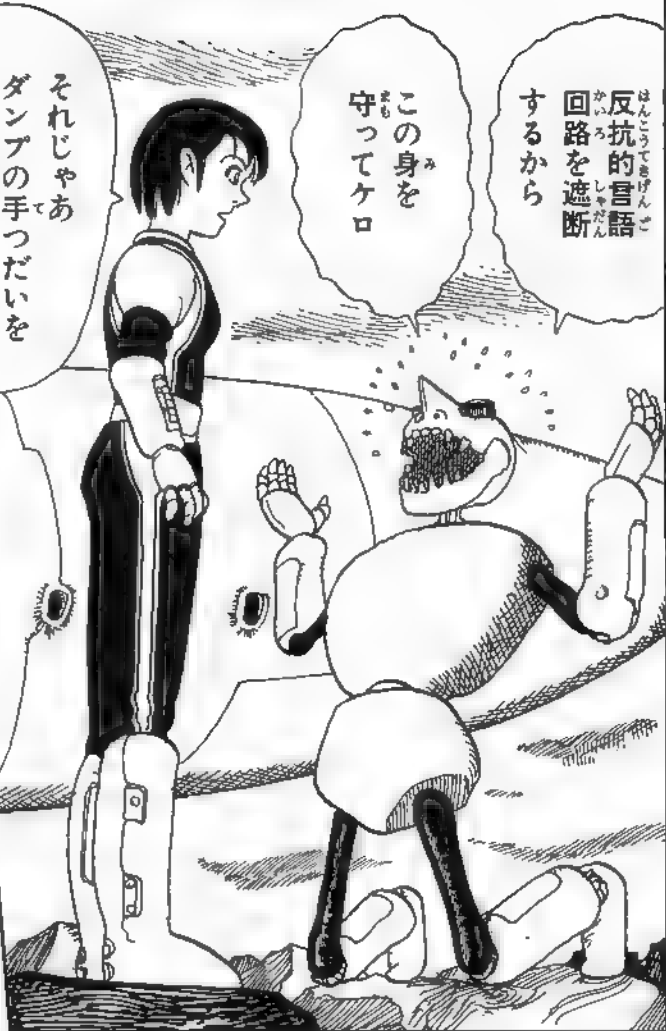
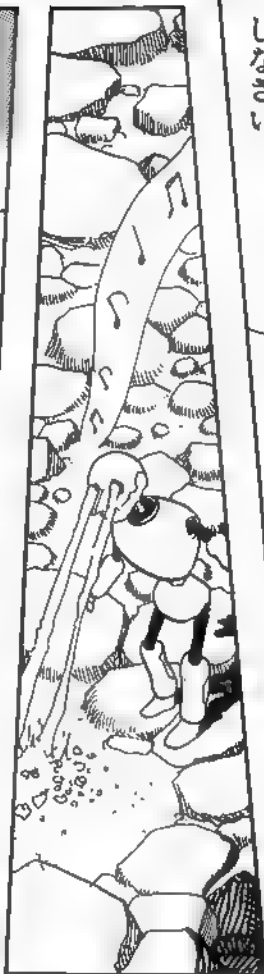
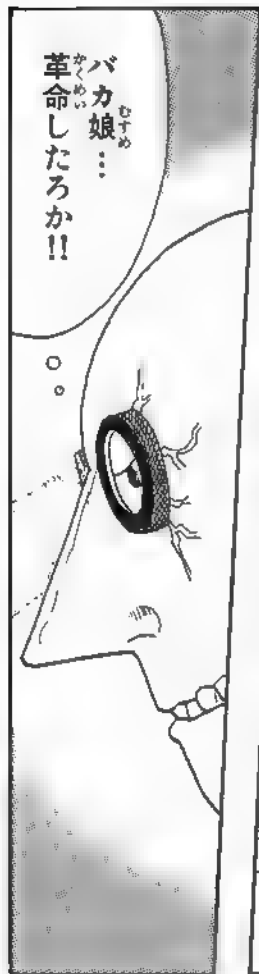
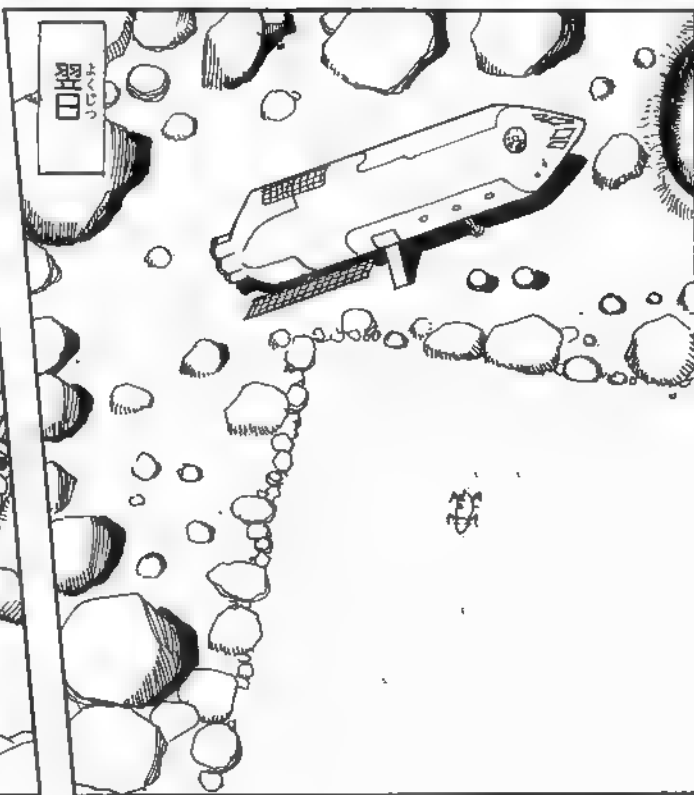
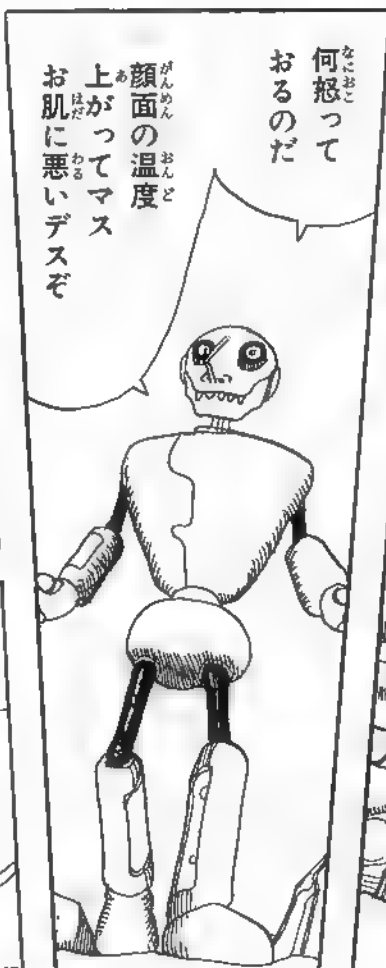
あわれは
アンタの中身よ
カチッ
ん？
こちらは
パッセラ社

破壊してください
破壊!!

自爆装置の発動暗号は
はいおしまい

船長!!
自爆装置の暗号って何だ!?

それを知るのは
アンタが吹き飛んだ時よ

破壊された私の姿…
むごたらしさ100%

反抗的言語回路を遮断するから
この身を守ってケロ
それじゃあダンプの手つだいをしなさい
バカ娘…革命したろか!!
翌日
農耕ザウルス
種をまけ〜っ
ザ

ギンドリ!!

ここへ来なさい

何怒っておるのだ

顔面の温度上がってマス
お肌に悪いデスぞ

降雨器こわしたろう

へ?

破壊は悪です…
そんなことしてマセン

すっとぼけてもムダです

監視カメラが動いていたんだよ ホラ

ええ?

船長は低級女

低級女には悲しい未来が待っている

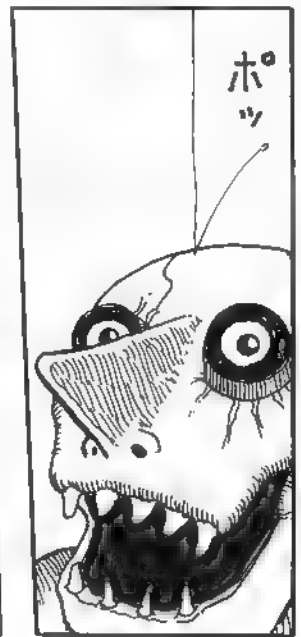
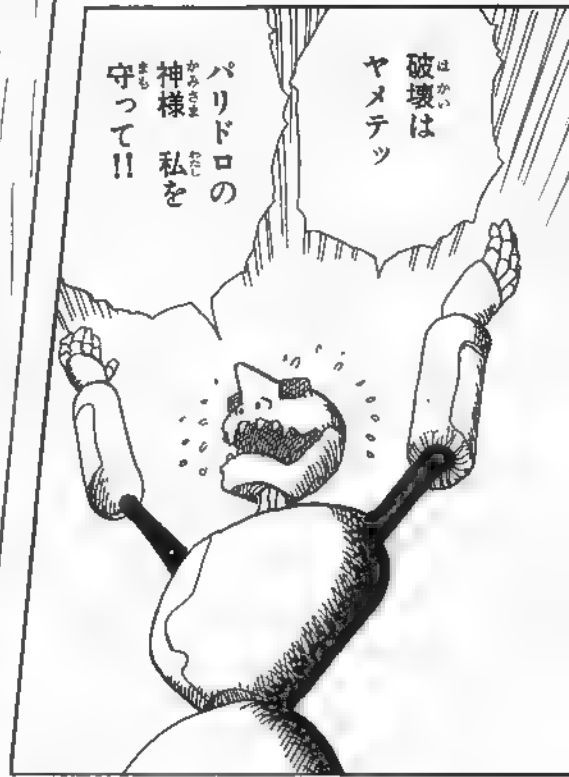
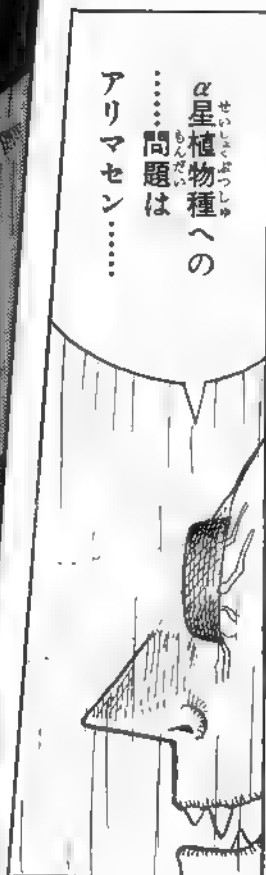
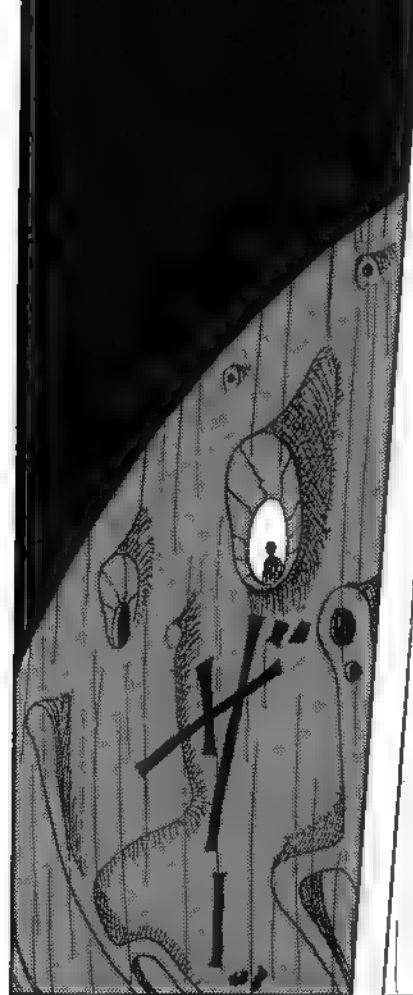
御禁制のシャブ油を飲んでますなぁ
あっ

くらえ降雨器
ドム

どうだコレで種まいても植物は生えない
雨なしで　船長はひからびるのだ

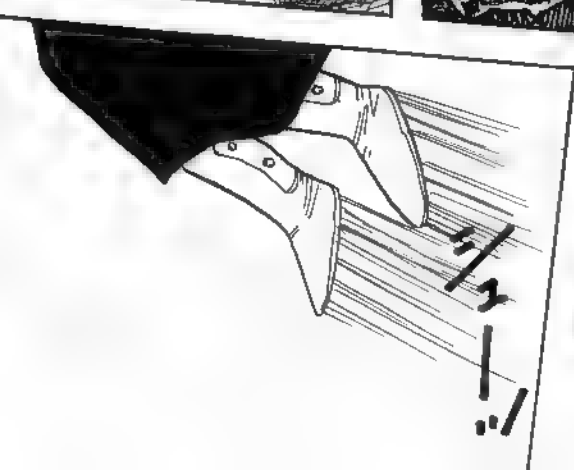
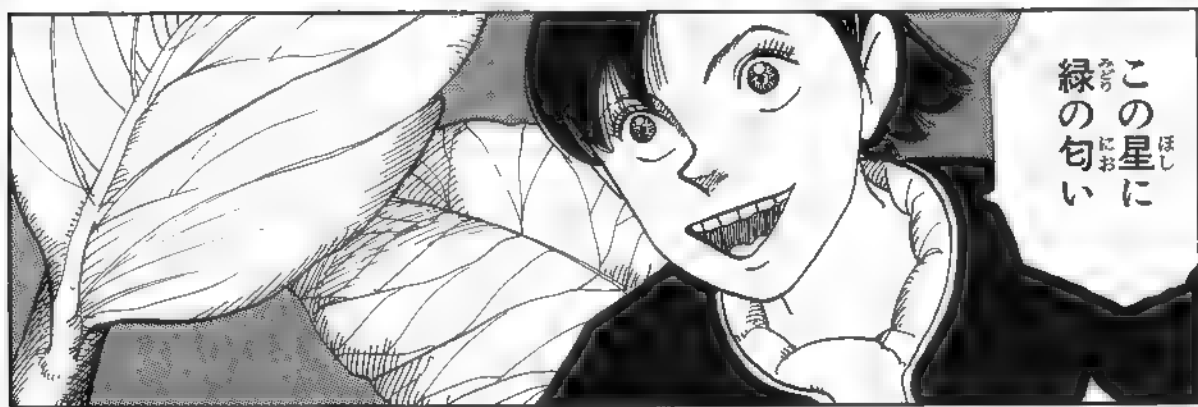
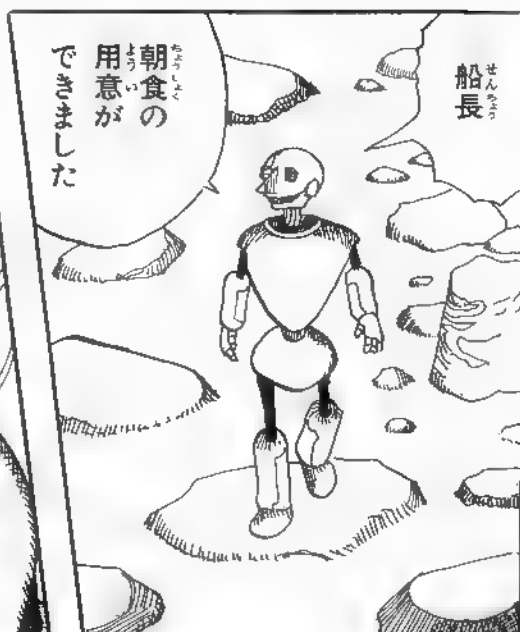
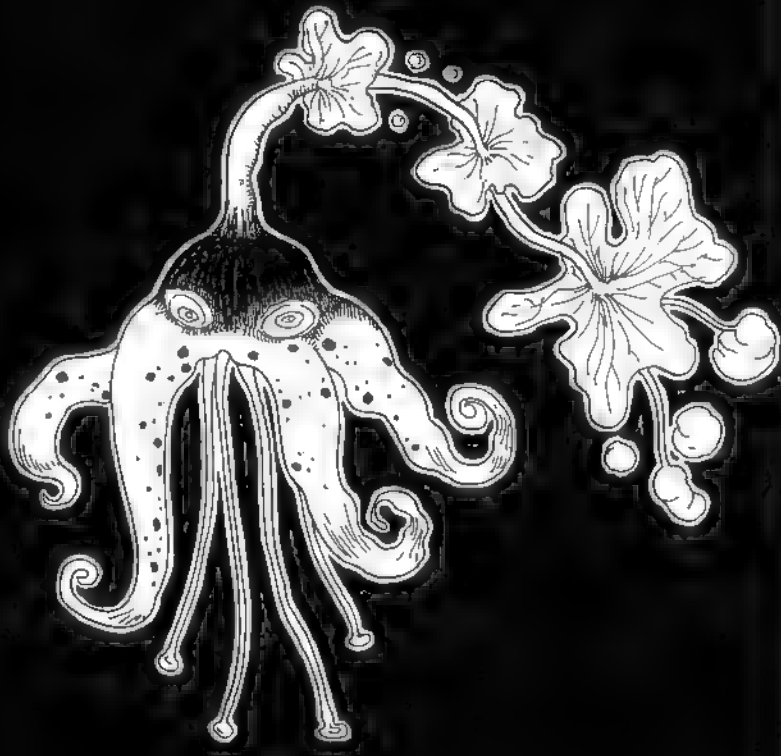
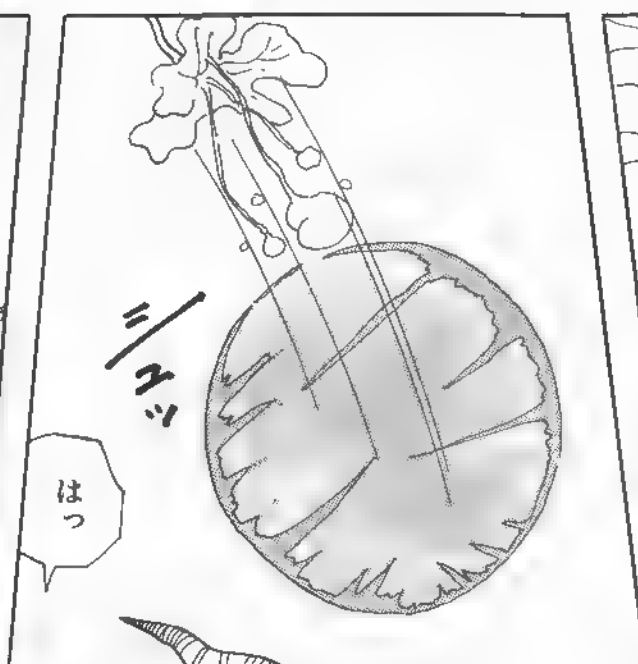
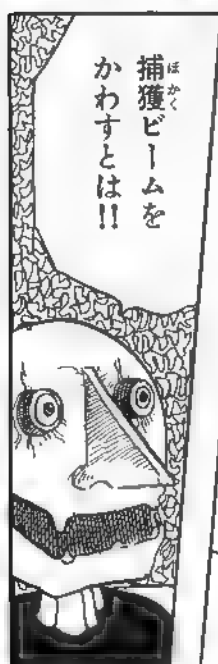
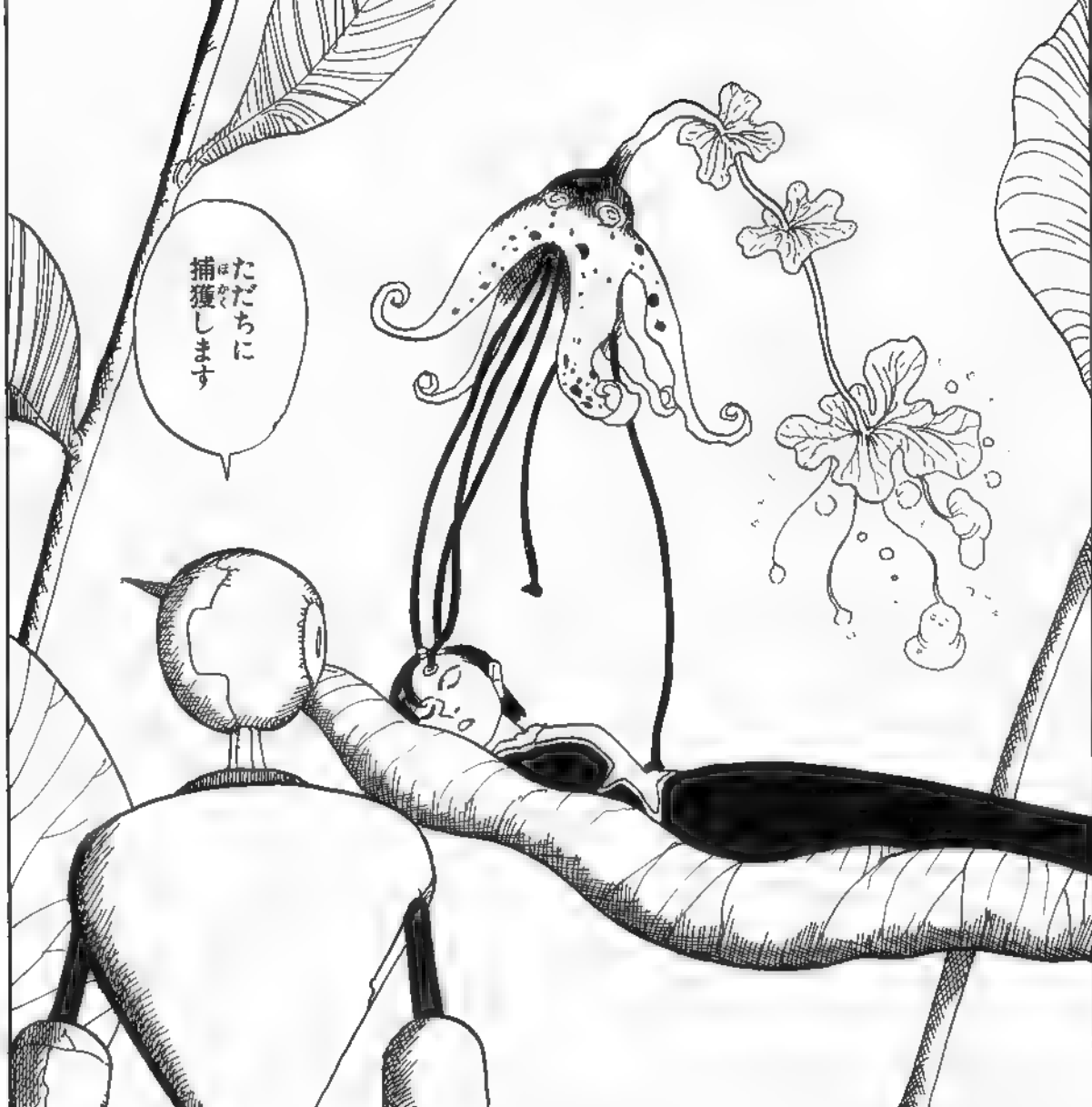
シャブ油だシャブ油のせいなんだあ
お前みたいな役立たずは交換するしかないな

交換!!
ああっ　お前も■雨■みたいに…

破壊はヤメテッ
パリドロの神様 私を守って!!
ザ――ッ
雨だ
オオ…
ポッ
あっ
ポッ
濡れますよミマナ船長
パサ――ッ
んっ

助かったな
ギンドリ
雨の
成分
分析を
ヘイッ

α星植物種への
……問題は
アリマセン……
ザーッ

太陽熱もあり
雨も降るのに…

どうして
この星に
生命は
育たなかったん
だろう
翌日
あっ
シューーッ

ああ…

ああ…
ワクワクするなあ

ん…
なんだか
……眠気が…

船長
朝食の
用意が
できました

生体反応
……
…あそこか

!
資料外の…

新種を発見しました

キック・キック・トン・トン

ただちに捕獲します

船長だいじょうぶですか

…んっ

クラゲみたいな妙な生物が船長にくっついてたんですよ

妙な生物!?

記録画像をゴランあれ

ホントだ

触手のようなものを
頭部と腹部に

…すると…
あのクラゲ型の生命体は何をしていたんだろう
調査するしかないな
格下げ!!
ああ
ストロンボリを副艦長にしてお前はヒラだ
光栄です船長
こんなアンドロイド役に立たねーぞ
!

これは…!!
自然物じゃねーですな
船長オレが突入しましょう
待てストロンボリ
ギンドリ調べろ

どけ!! 腕力だけの役立たず
ぐっ
貴様 副艦長に向かって!!
生命体の温度反応は…ありません
この物質は石灰質
内部構造はサンゴ的です
サンゴ的
うっ

美彗!!
どうしてここに!!
ひさしぶりミマナ
…三年前から来てるのよ
三年前
変だな
船長の「三年前」という言葉に感情の乱れがある

なつかしいなあ
そういえば その服
二番月に ピクニックに行った時の
うん 好きなんだ これ
でも…あの ピクニックから 一週間して
貴方は死んだのよ
船が爆発して…

!

スカートのほころびは
あのピクニックで
ひっかけた時の…まま…

ねえ
美彗
貴方の
お母さんの名
何てったっけ？

どうしたの
急に…
星連だよ
ああ…
そうだったね
それで
お父さんの名は？

えっ
お父さんの名？
そう
東23基地で働いている
電離師のお父さん

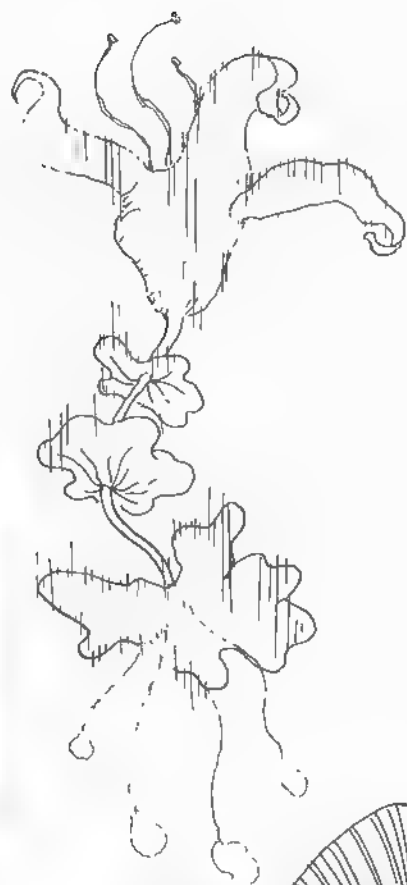
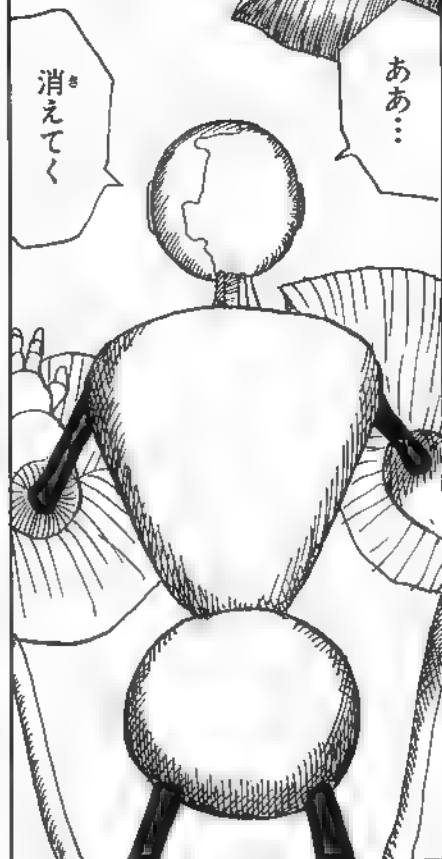
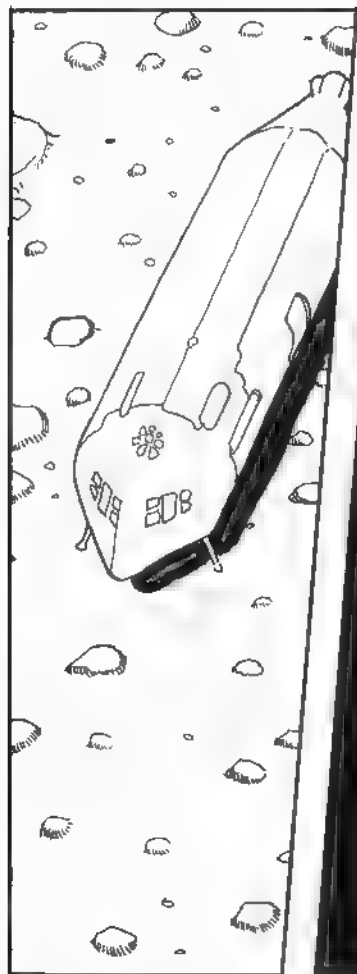
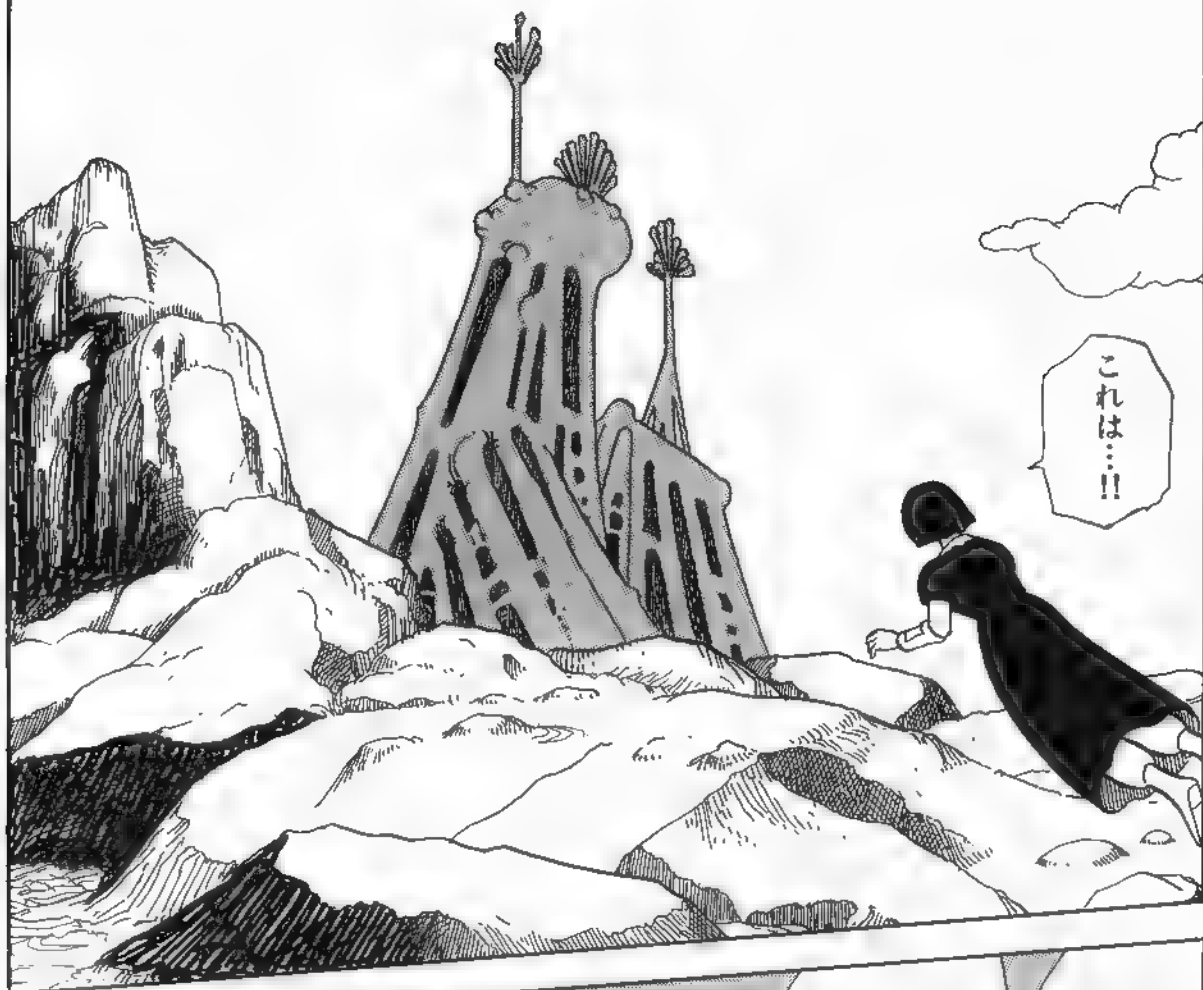
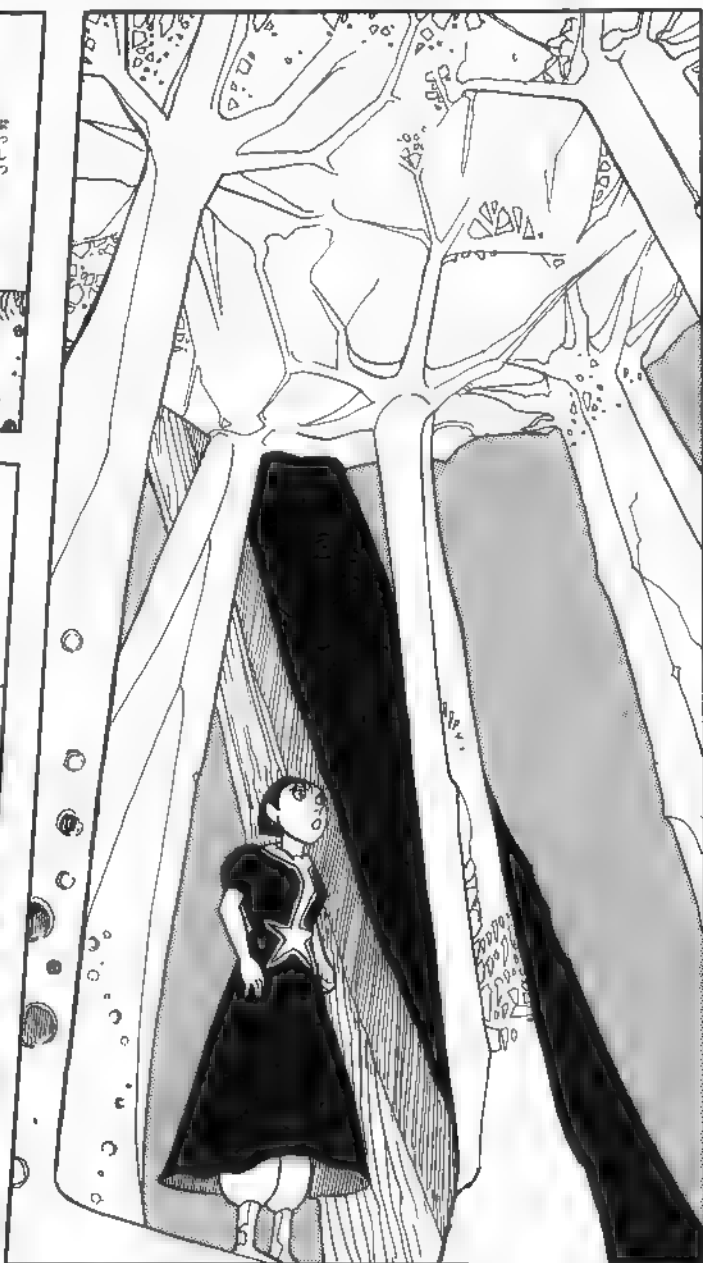
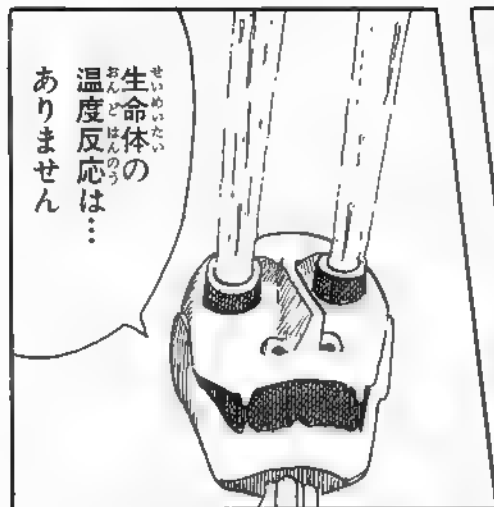
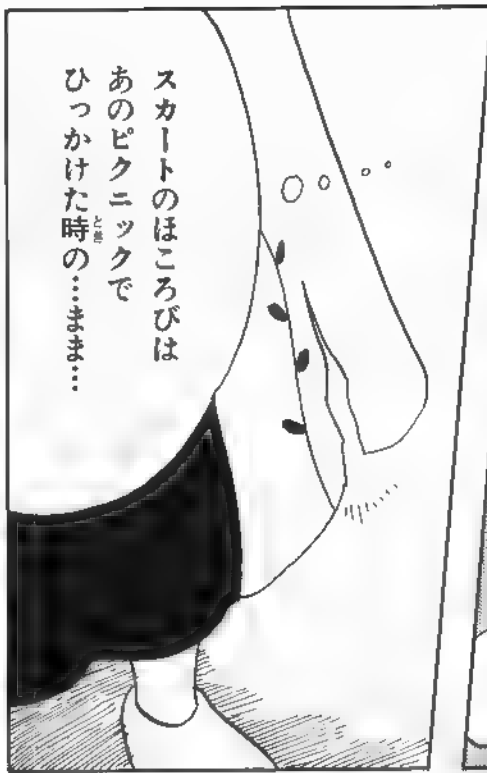
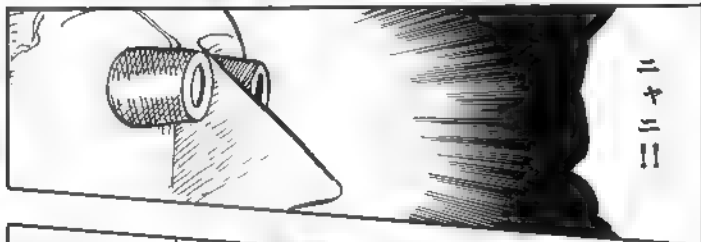
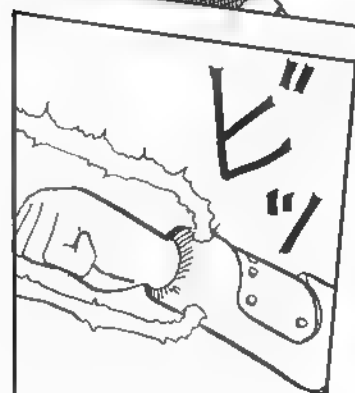
どうしてだ!!
コラ娘!!
なんでお前は父の名前を言えないんだっ
うう…

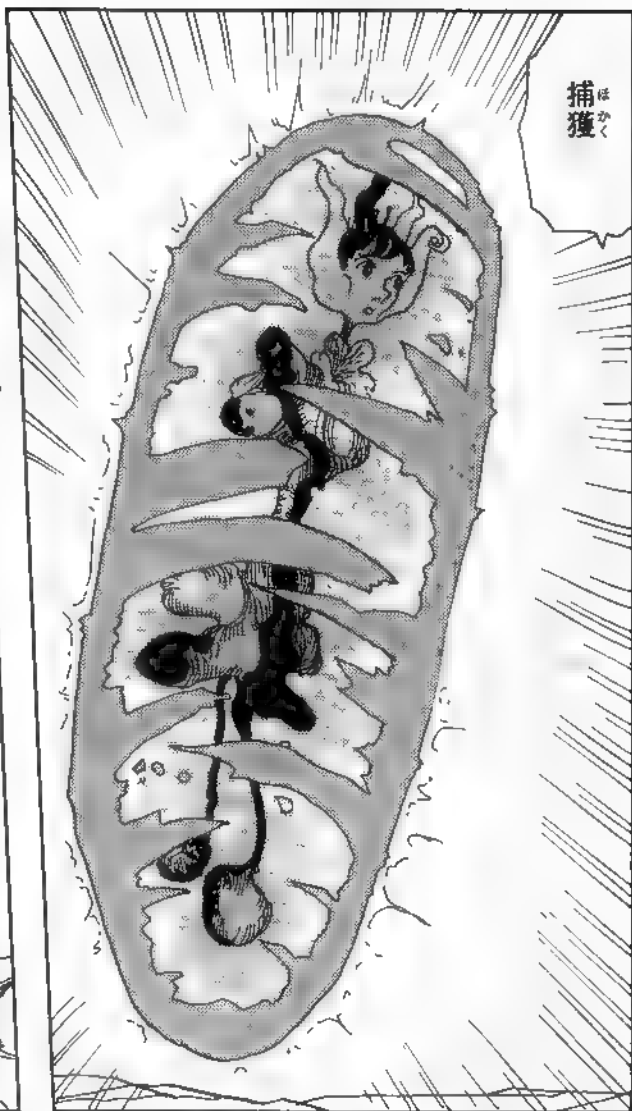
それはたぶん
私が美彗のお父さんの名を知らないからよ

ニャニ!!
そのスカートのほころびは月にピクニックに行ったときひっかけたもの
三年前のほころびスカートを今も着てる貴方は

「私の記憶」なんでしょう!!
正体を表しなさい

やっぱり
クラゲ型の
生命体か
このやろう
よくも
船長の記憶を
盗んだな
馬鹿ロボット
暗号を
言うわよ
おお
船長そっくり
ビッ

捕獲

船長　こいつ
どーするんですか

私の記憶を消したら
放してやるよ

何だ
あれ？
んっ
そりゃー
のこった
…ああっ!!
わー
船長
こりゃあ？

私が小学校の時描いた絵だ
そこだ
わーっ
がんばれー
のこったのこった
いてっ

星ー
わー
わー
それー
わー

私の記憶が拡散してるんだ…
それー
ボッ

3 えるぺる

ババア発見

コッ

あっ

コラ

ババア凶暴

にげろーっ

もう

何だコイツ怪物だぞ

やめろブチのめすぞ

カン

コン

わー

まいったなあ

私の記憶に
変身する
生物なんて…

あれっ

んっ

あっ

ジュピター?

ザリ

ザリ

私が小さい時飼っていた猫だよ
家出していなくなったんだ
なつかしいのは解りますがしょせんクラゲですぜ

船で飼おうかな

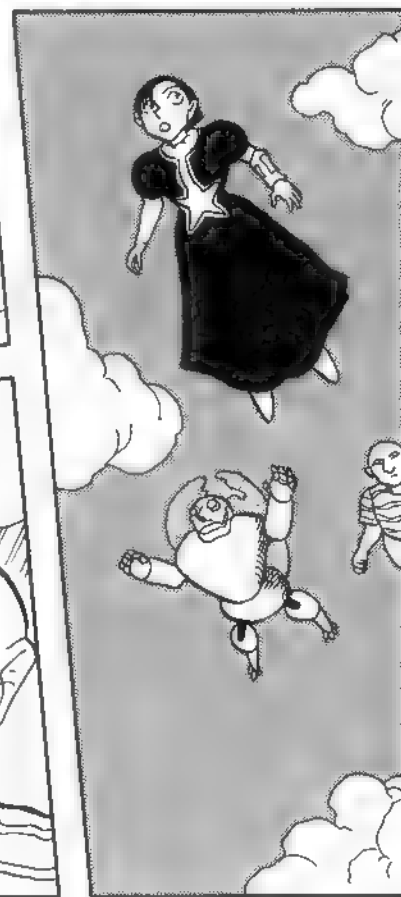
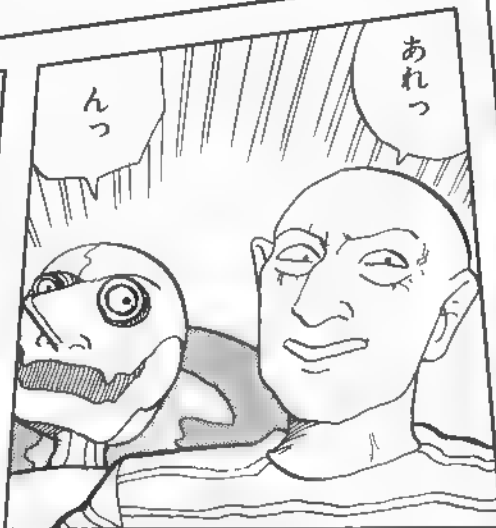
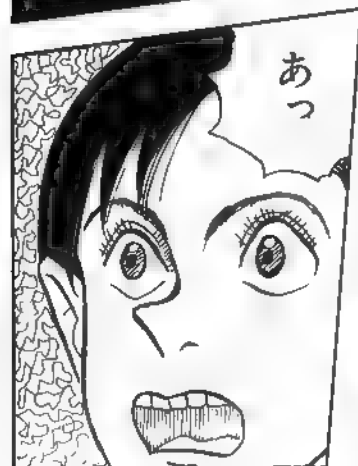
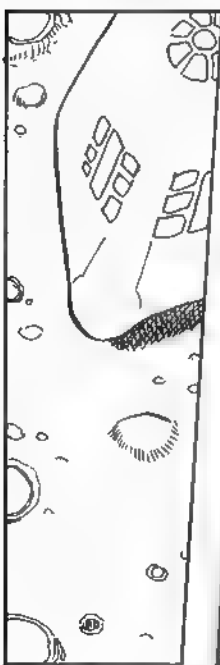
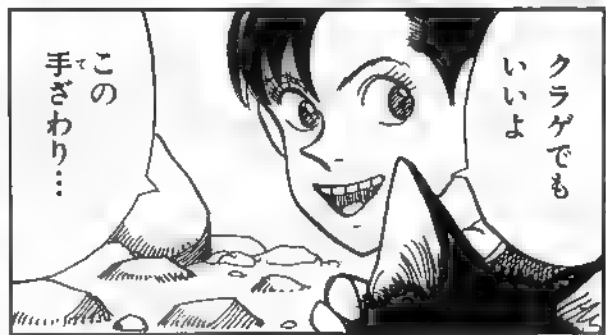
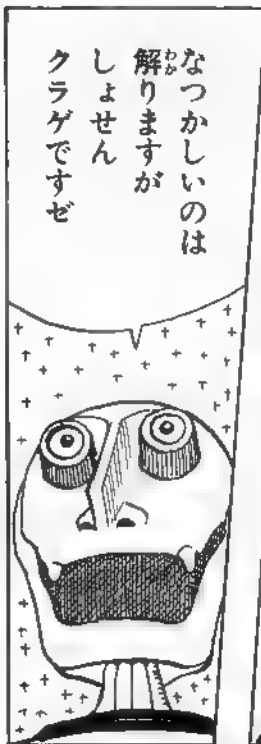
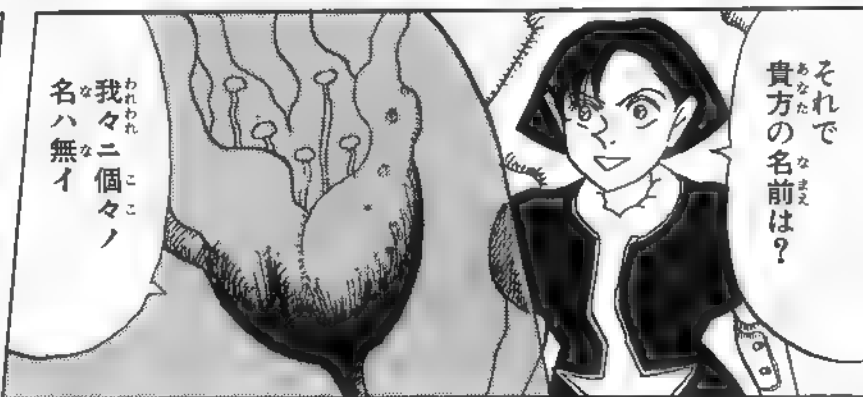
クラゲでもいいよ
この手ざわり…

えーっ
船長早いとここいつを調べましょうぜ
よし行こうジュピター

さあ 話してもらおうか

貴方たちはいったい何なのだ?

……我々ハ……「えるぺる」…

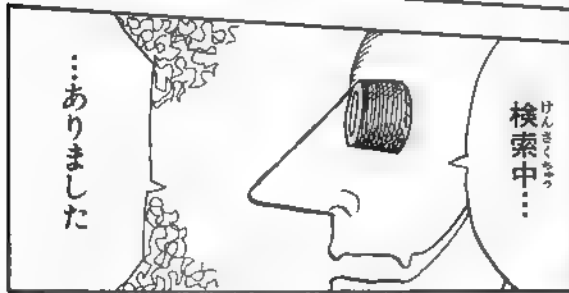
エルペル…

ソノ質問ニ答エル事ハデキナイ
この野郎もったいつけてっと電流計をくらわすぞ
ギンドリ勝手なことを言うな

お前は私の友達美彗に変身していたが…他の私の記憶にも変身できるのか？

私ガ感ジタノハ美彗トイウ少女ダケ他ノ記憶ハ知ラナイ
キツネになった者はジュピターにはならないのか

船長妙な者が近づいて来ます
えっ
あっ

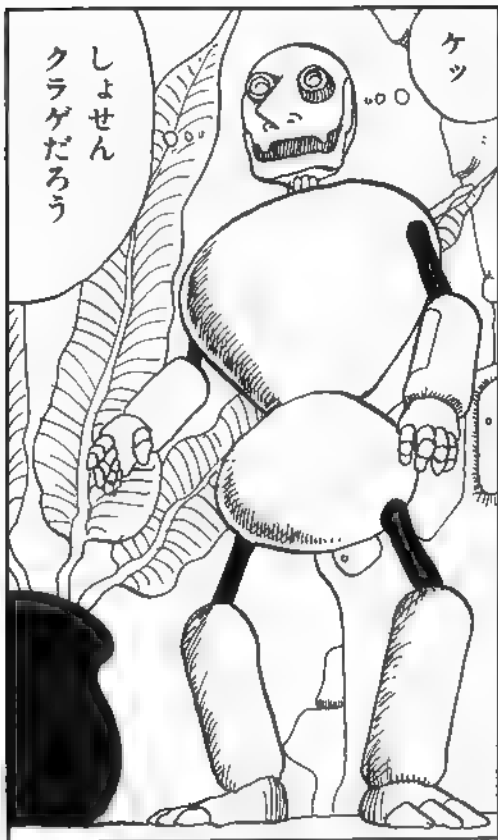
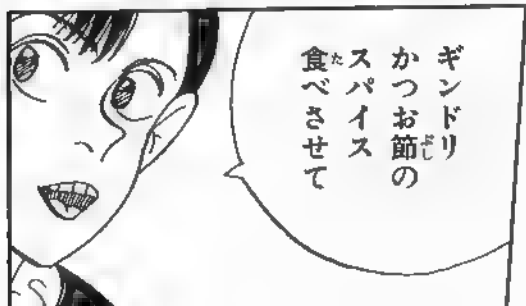
ほう…娘子か

お主…変わった屋敷に住んでおるのう

「真田幸村 西暦1567
父・昌幸の次男として生まれる
その容姿は

ゲッ

船長 これが
幸村の顔ですか!?
ずいぶん顔が
違いますぜ

だって 私の記憶の中の真田幸村は
オメガ星雲TVの日本史ドラマで響ノ宮・雷丸が演じたやつだもん
響ノ宮雷丸？
響ノ宮・雷丸 本名 鳥井ジュウラ 2963年オリオン座α星生まれ
ビーナス演劇大学を卒業 TV「真田幸村」で人気を博したが 覚醒剤パラポラの中毒によりTV界を追放され その後行方不明
なーんだ 落ちぶれ役者じゃないの
ワシを落ちぶれなどと……
貴様 徳川の傀儡器か!!

何言ってんだ
このクラゲ
言葉を
つつしめ
ギア
幸村様
私の器械が
とんだ無礼を

ええ、ホントですか
真田十勇士の猿飛佐助や霧隠才蔵の仲間に!!

ホーレ ちびっとしか やらないぞー
くそォ 何で 高性能の オレ様が クラゲ猫の エサ係なんだ
ザリ ザリ
しかも 幸村クラゲの 野郎…
「寝首をかきそうな 奴じゃのう」だと…

純正 怒り 100%

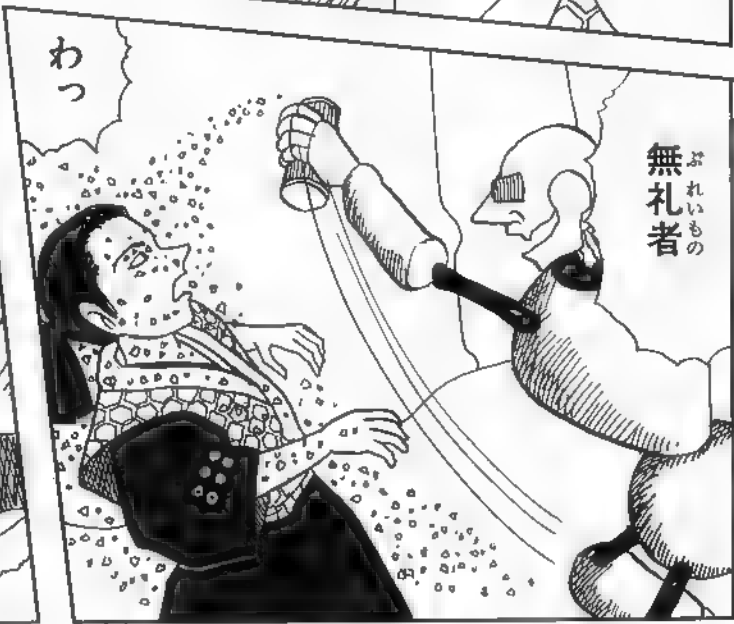
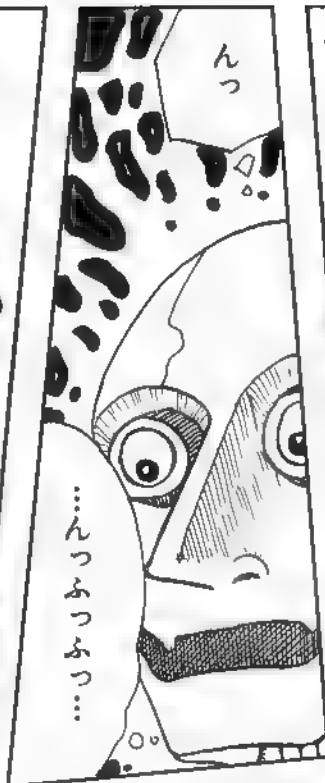
赤ワインとやら

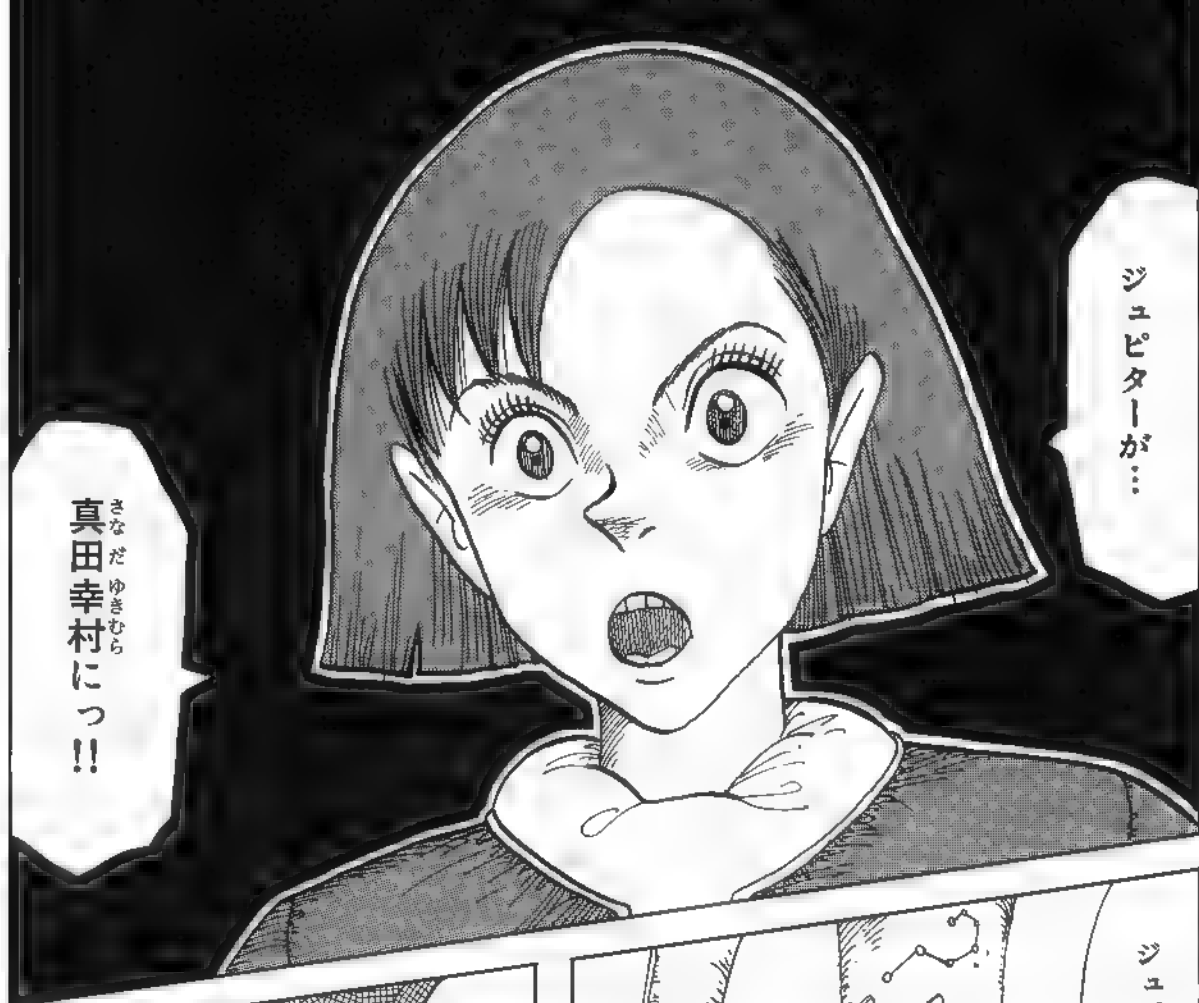
なかなかの 酔い心地…
して 厠は どこじゃ?

厠?
ああ… トイレですね

ギンドリ 幸村様を トイレに おつれして

くっ
エサ係の次は
トイレ案内
だとォ
ミャオー
ミャ〜〜
こら猫 待て
エサはあとでだっ
んっ
…んっふっふっ…
しかしでかい
猫じゃのう
猫も何考えてるのか
わからぬ生き物じゃが
お前のような
裏切りの臭いが
ないぶん
かわいいよのう
無礼者
わっ
ミャオ
うわーっ
あの声は!?

ほほほ
幸村滅亡
何てこと…
ガガ
ブブ

幸村は無事じゃぞ

月昇る時

ジュピターが・・・
真田幸村にっ!!
ジュピター?
ジュピター?
不思議よのう
その名を聞くと
胸さわぎが
するぞ
そりゃあ
そうでしょ
貴方は私が
飼ってた猫だよ

可愛い可愛いジュピターちゃん
うっ

ゴロロロロロ

ゴツ

違う
断じて違うぞ
わしは真田幸村なり

世話になったな娘!!

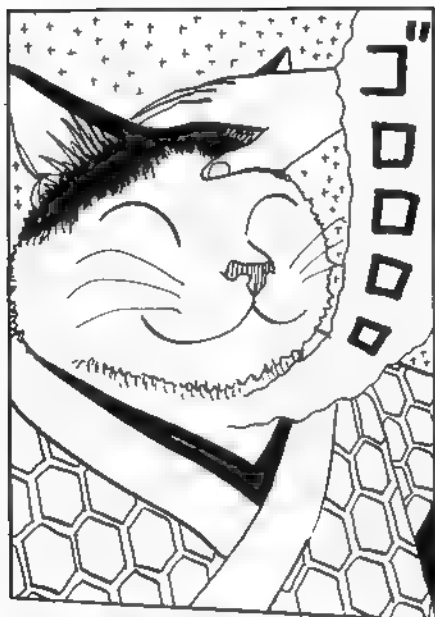
ジュピターどこ行くの?

上田城じゃ

うう…

ねっ言ったでしょ
ここは貴方の住んでる星じゃない

上田城なんてどこにも無いのよ
トン

そんなバカな…
貴方は私の記憶の産物…

私が飼っていた猫の
ジュピターと
真田幸村という
2つの記憶に
化身している
クラゲ型生命体
「えるぺる」なんだよ

クラゲ型
生命体だと
無礼者!!
この幸村に向かって

貴方は
猫じゃないの!!
真田幸村は
人間でしょう

うっ

確かにこの体は
猫だ
しかし ワシは
まちがいなく
真田幸村じゃぞ
がんこな
奴だなあ

ソウカ…

どうしてなの
美彗の記憶を持った
貴方みたいに
元にもどろうとしないのは

ソレハ　記憶ガ
強イカラダ
「真田幸村」トイウ
記憶ガ強イタメダ
強い記憶

アア
ソシテ今夜
「ルル月」ノ光ヲ浴ビレバ

完全同化スル
完全…同化

いーじゃねーですか
じょーだんじゃないわよ
元にもどらなくなるのよ
猫の真田幸村なんて存在していいわけないいよ

もう手おくれですよ
「ルル月」が昇って来るまで　あと5分ですぜ

あれっ

何だありゃあ
ああ

なつかしー

トン

わー
んっ

あら
アンタたち
こんな所に
いたの？
あっ
また来たぞ
説教女

ねえねえ
君たち
白黒模様の
猫を見なかった？

「せっしゃ
サナダ
ユキムラで
あるぞ」か？

そう
真田幸村猫

アイツなら
あっちの方へ
行ったぞ
ありがと
そういえば
みんな!!
もうすぐ「ルル月」が
昇ってくるよ

知ってるよ
でもオイラ
もどんないぞ

オレは…

きつね…アキタ…
あら

月が上って
来たぞ
あっ

うう
いっ
ああ

いいいっ
パチ
パチ

バタ
バ

死んだか
違うよ
気を失ってるだけだ

真田幸村…
元にもどったかネ

たぶん…
もどってないんじゃないか?
さてはどこぞでのびてるな

あっ

幸村猫に
えるぺるが…
何をしてるんだろう?
記憶を取ってるんじゃないでしょーか

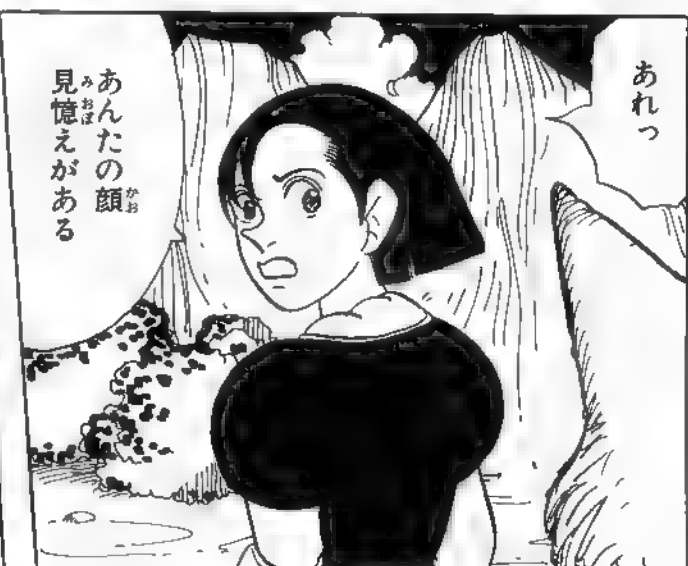
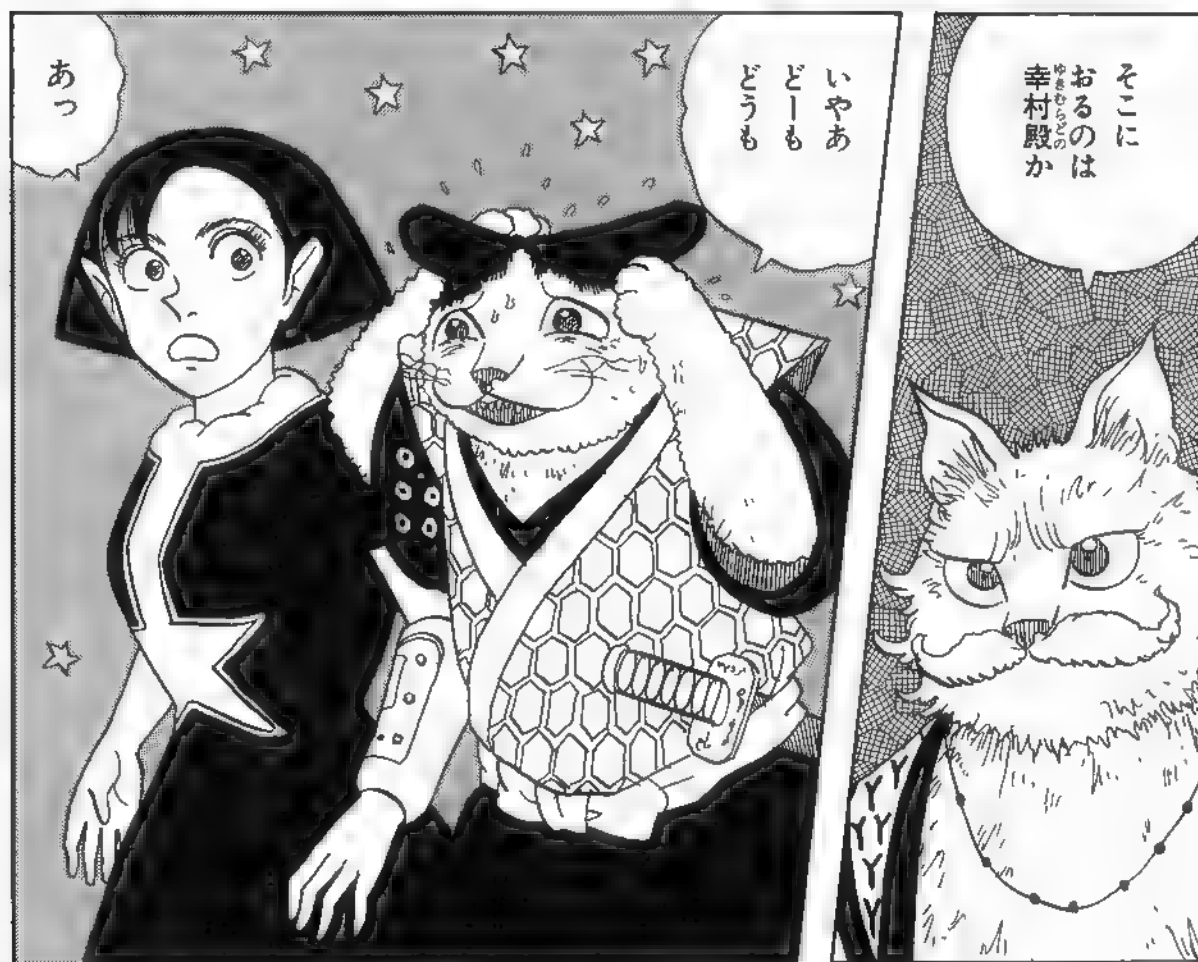
記憶!

ええ
ミマナ
船長の時も
あんな風に

あっ

んっ

あの猫…確か…
近所のパドラさんちの
シュル
ねえねえ

君は「ガッチャン」でしょう
パドラさんちで飼われていた

ガッチャンなんかじゃない
オレは猿飛だっ
ドッ

君は確かに
すばしっこかった

わしは三好清海入道
同じく
真田十勇士の
ひとり
根津甚八

フフン
猫版
真田十勇士
かあ

あれっ
あんたの顔
見憶えがある

あんた　いつも
ジュピターを
いじめてた!!
肉屋の
「ブブ」

いかにもワシが徳川家康じゃ

駿府（すんぷ）

貴方が徳川家康！

そうとも

そこにおるのは幸村殿か

いやあ どーも どうも

あっ

ホッホッ

ゴロロ

こら
ジュピター

そこにいるのは
肉屋のブブじゃ
ないんだよ

もう!!

徳川家康なんだ
そして貴方はね
家康が最も
恐れた武将
真田幸村なんだよ

ノドなんか
鳴らしてないで
シャキッと
しなさい
家康は
敵なのよっ

ゴロロロロッ
どーでも
いーべよ

ウワッハハハッ
娘子
お主 ワシと
幸村殿をそんなに
戦わせたいのかな
そんなんじゃ
なく
歴史の
流れだよ

ワシは
誰との戦いも
好まぬぞ

へーっ
それじゃ何を好むわけ？

町作りじゃよ
平和な町をせっせと作っとるのじゃ

町作りって駿河の駿府!?
いかにも!! ぜひ一度 ワシの町を訪ねてくれ

駿府か
ねえ 幸村!! 行こうよ

行きたきゃひとりで行けば
な!!
何よそれ…!!

我が駿府はここより北東の地
いつでも訪ねて来るがよい

さすが家康堂々としてるなあ
その点どうなってんのよ真田幸村は!!
こわいんだよっあいつ!!ミマナ殿早いとこお主の館へ帰ろう

帰りたかったら上田の城に帰れば!!
へっ

殿!!上田の城はいずこへ?
早く帰りましょう
それが解らんのじゃ

解らないのじゃなくて……
貴方たち作ってないんじゃないの？

えっ
そういえば……

城無しの殿様かあ

よーし

こうなったら
上田城を作るぞ

ワーッ
城持ちだーっ

しかし作るといっても…それには町を作らないことには始まりませんぞ

さすが甚八いいところに気づいたな

そういえば家康の奴
町作りって…どんな町を作ってるんでしょうねえ

ようし猿飛
お前 行って調べてこい
えーっ
オレひとりでですかあ

情けない声を出すな
ようし三好と甚八も行ってこい
ゲッ
殿はどうするんですか?
ワシはデーンとここに陣をとっておるぞ
幸村くん貴方も行きなさい
翌日
貴方たち
着物はどうしたの?

あれは窮屈でタマランのよ
裸が一番じゃ
なんだかだんだんジュピターにもどっていくみたいだな

殿 町です
駿府の町ですっ
何！

おお

すごい…これが家康の町
あわわわ…
でっかい

何ビビってるのよもう!!
貴方がこわがってるのは家康じゃなく肉屋のブブでしょう

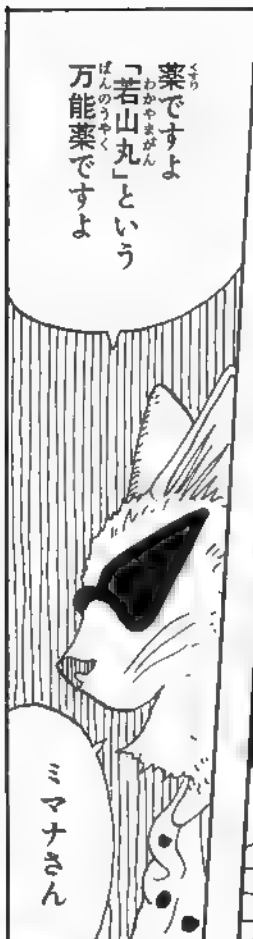
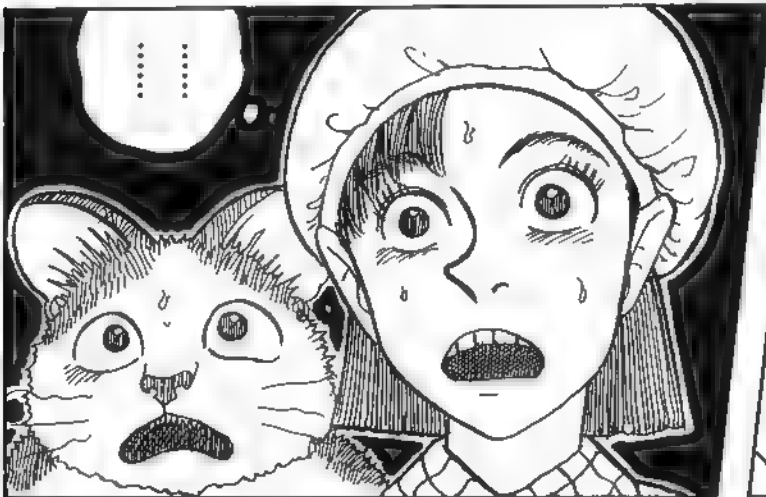
「ブブ」って聞くと何だかドキドキするんだ

ずいぶん追いかけ回されたもんね

だいじょうぶいざとなったら私が守ってあげるから

かたじけないぞよ

安いよ安い
ごろろろろ♪
若山
えるぺるが買物してる
おまけしたよ

どーです
お嬢さん
1ついかが
何ですか
コレ？
薬ですよ
「若山丸」という
万能薬ですよ
ミマナさん
えっ
どうして
貴方
私の名を？
そりゃあ
家康殿の
家康殿と
いえば
お城に行くには
どうやって行けば？
おかしいな
確かまっすぐ
行けばって…
まよったみたいだぞ
んっ

Mikawaya
元祖
殿ーッ ヤワラカスギマスヨ
いやあ〜っ どうもスンマセン

これはこれは
ミマナ殿に
幸村殿

家康殿は
自ら
タコ焼き
売ってるんですか

当然じゃよ
お城の中に
ふんぞりかえってても
町は大きくならん

そうじゃ
真田殿も
手伝って
下さらんか
へっ

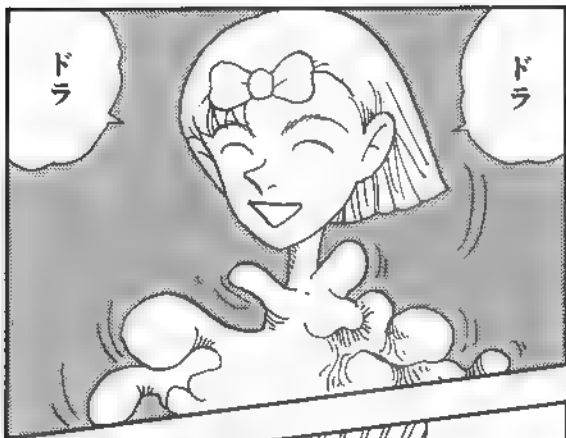
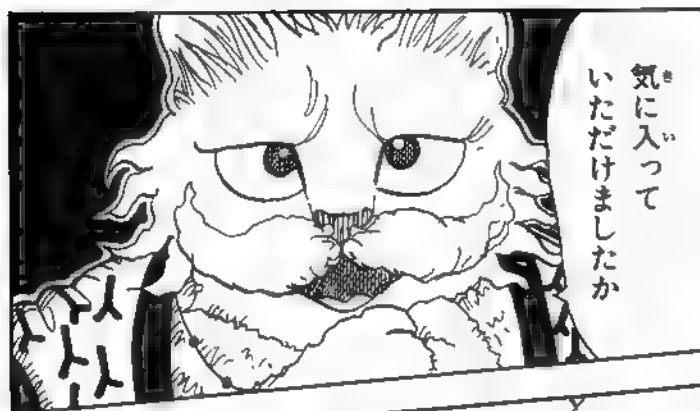
劇場の
切符売り
なんじゃが

ミマナ殿は
無料で
見ていいぞ
う

「ミマナちゃん」ショー

クロタ

あらまっ
ミマナちゃん
ド・ラ・ゴ・ン
ド・ラ・ゴ・ン
ドラ
ドラ
ドラ
ゴン
オー
く〜っ
うはは

ちょっと家康殿
何ですかアレはっ

気に入っていただけましたか
気に入るわけないでしょう
即刻中止して下さい

それはできませんなあ
なにしろ大評判のショーじゃからのう
それよりミマナ殿あのショーに出ませんか？「元祖ミマナ」登場!!
冗談でしょう

殿ーっ「クロタ」がまた来てますっ
何!!
クロタ？

クロタッ どけよ じゃまだよ

何で来るんだよ

我々は元をただせば貴方の記憶によるものなんですよね
とすれば　この大きな猫も貴方の記憶なのでは？

でも…
ぜんぜん憶えてないのよ
「クロタ」なんて知らないし…
クロタ

ねえクロタくん私のこと憶えてる？

し～ん
……

そいつはウンともスンとも言わない奴じゃ

君ーっ
トン
あっ

うっ

ミマナ殿
クロタにさわると
ビリッと
しびれるのじゃ

しびれる?
ナマズみたいな
猫かよォ

殿ーっ しびれますよォ
えーっ 何でオレだけ？

家康殿 これはいったい？
不思議な話よのう…

幼子!!

ワシらはみんな ビリッとして さわれないんだが
幼子は平気なんじゃよ

フ〜ン
あっ コラ 何だ その目は

ワシは子供なんかじゃないぞっ

あっ

おっ帰って行くぞ

帰っていくってどこへ？
町はずれの岩場に巣くってるようじゃぞ

ねえ クロタ 私の船でくらさないかっ
のこのこ
クロタ

クロタは…私が小さい時に描いた絵の猫なのかもしれない…
私が幼すぎて何も考えずに描いてしまって…

それであの猫も何も解らず言葉も知らないのかもしれない
あれっ

なんだろこれ
クロタが座ってた場所に…
んっ

「えるぺる」的な伝達法だよ

「えるぺる」的な伝達法？
ああ…その皮が輝き出したら何かが伝わってくるのじゃ

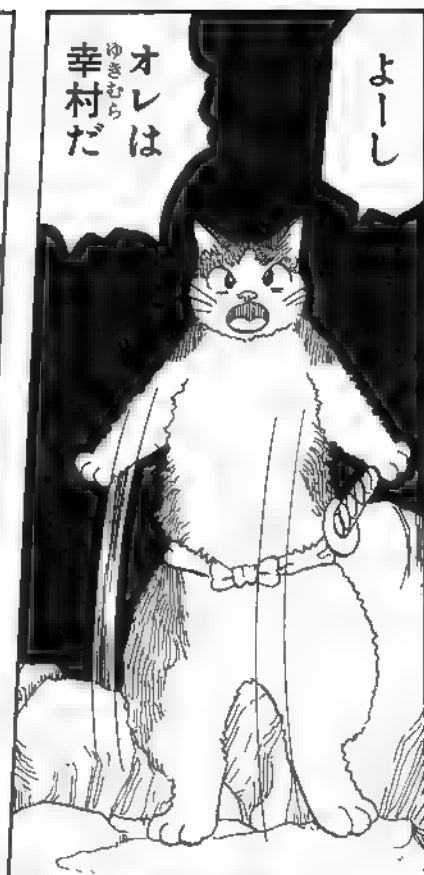
何かが伝わってくる…!?

ところで真田殿切符売り場で働いてくれんか
ハア…
あっミマナ殿

ミマナ殿どこへ!?

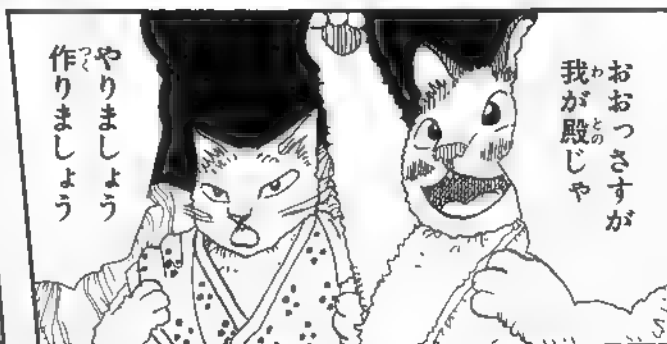
しかし…

駿府の町って大きいなあ
家康ってスゴイ奴ですねえ

タコ焼き屋から始めて こんな町を作ってしまうんだもんな

よーし

オレは幸村だ

上田の町を作ってやる

駿府なんかより大きくしてやるぞ

…クロタ…

おおっさすが我が殿じゃ

やりましょう作りましょう

ママ…色えんぴつどこ？

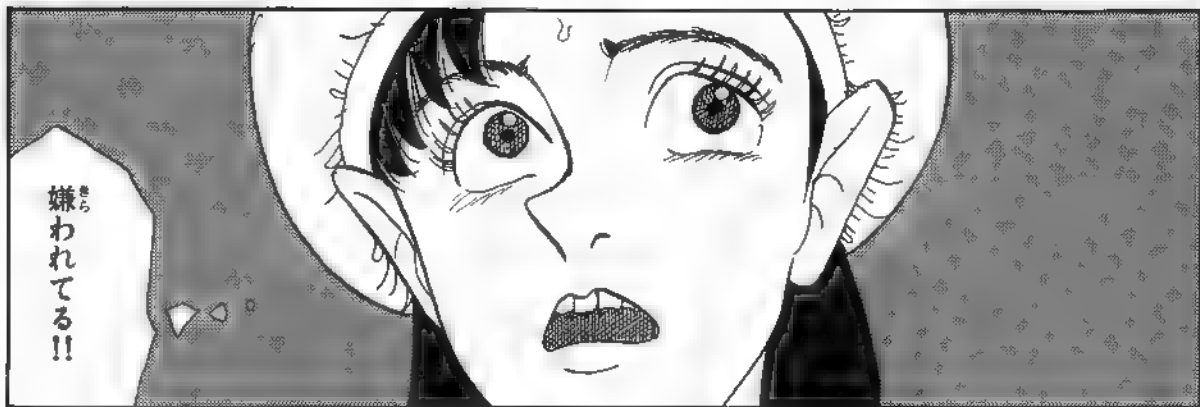
あら、ミマナ この猫の絵、どうしてこんなとこへ？
ママ、いらないよ、それ
上手に描けてるよ ミマナ
もー いいよっ
ポイして!!

あれっ
また
だまって
しまったぞ
……
しかし、変な奴だなあ

ちゃんと
言葉
知ってる
くせに
クロタ

町の連中や
ミマナ殿が
話しかけても
どうして
返事しないのか
なあ?

失礼ながら…
ミマナ殿も
駿府の町も
嫌われているのでは?

やっぱり すてたり 忘れて しまったりした もんなあ…
あっ
うっ
クロタからの 伝達だぞ

「10才の頃は
本当の絵描きであり
詩人だった」
「成長とは
退化していくことなのか?」
クロタ

7

君の三日月は？

「成長とは」
「退化していくことなのか？」
……！

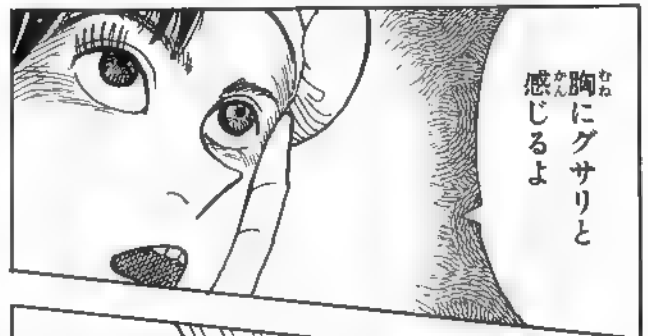
クロタ…
スッ

こらっ
クロタ
何が言いたいんだ
ハッキリと
申せっ!!
……
……

「人はみな　10才の頃は本当の絵描きであり詩人だった」
…かな…

ミマナ殿はクロタの伝言が真実だと思うのですか？
ああ

胸にグサリと感じるよ
私は　そうは思いません
子供の描いた絵が大人の絵よりすぐれてるなんてたわけた事ですぞっ

たわけた事？
むろんむろん

クロタの型は
ミマナさんが
小さい時に描いた
絵なのだから
あんまり
言いたくない
けれど

はっきり言って
ヘタクソな型ですよ

確かに　そうだよなあ
あんな頭だけでかい猫なんて
いないよ

私も
少し前までは
そう思っていたよ
子供たちの
描いた絵は
未熟なものだと…

でも
だんだん
気がついて
きたんだ

大人の絵描きがどんな大作を描き上げても
「幼稚園児の絵をしのぐことはできない」ってこと

そっそれは愚説ですぞ
これこれ落ちつけ甚八

ミマナ殿甚八はかつて絵師をめざした程絵が上手なのじゃ

それは大いに期待しましょう

期待？

フフフ
カチャ

何ですかコレ?

光波キャンバス

光波キャンバス?

さあっ　このキャンバスで
あの三日月の写生大会をやりましょう

はい
それでは次は
甚八さん

よ～っ
甚八
エッヘン

これが私の
作品です

やっぱり
うまいなあっ
さあて
お次は殿だぞ

いくぞ
みなの衆

ジャーン
お月様じゃ

うははは
何ですかーっ
それ!?
太った毛虫ーっ

ふふふ
ふふ
すばらしい…

すばらしい?
こんな
いびつな
三日月の
どこが
すばらしい
んですか!!
コラ
猿飛

絵はね
そっくりに描くとか
正確に描くってことが
「うまい」んじゃないんだよ

「そっくり」を越えたところに
絵はあるんだ
そっくりを
越えたところ…
ああ
そっくり描く
というのは　結局
「技術」なんだ
でも　いくら
技術をみがいても
それだけでは
絵にはならない
名のある画家が描いた
巨大な労作を見ても
どうも
感動できない
ことがあるだろう
それは画家の瞳が
閉じてるからなんだ
瞳が閉じてる?

そう 本当の絵は「心の瞳」で描くのだ

心の瞳!!

幼子たちに写実の技術はないけれど
「心の瞳」だけは「まんまる」だよ

大人になるってことは…
その瞳を閉じることなのか?
しかし…成長すると何故閉じてしまうんだろ?

他者を意識するようになるからじゃないのかな？
他者を意識する？
絵を描いて
誰かに褒められたい
金賞をとりたい
絵描きになれば高く売りたい
…でも子供の絵はそんなことは考えない
描くことにただ純粋だ
ねえねえミマナ殿の描いた絵
見せてくれよ
そうそう
じゃあ
あっ

何だ三日月そっくりじゃないか
ああ…
私はもう幸村殿みたいな三日月は描けなくなった

でもねえ大人になっても子供みたいな絵が描ける奴なんて…
うちの殿様くらいじゃないの

コラ猿飛!!
無礼だぞ
フフッ

ねぇ これ見て
んっ 何じゃ これは？
何だと思う？
私 この絵が好きなんだ

ええっ
大人が!!
それにしても
何の絵ですか?
地球のアフリカ大陸の
タッシリ・ナジェールの
巨岩に描かれた……
石器時代の絵
これは
象だよ
象!!
そうか…
あれが鼻で…牙かあ
遠い昔…
こうした象の絵を
描く大人がいたんだ
こんな
あどけない絵を
描ける大人は
もう今は
どこにも
いない

絵は……「心の瞳で
描くもの」……

ううっ
寒くなって
きたぞ
ミマナ殿
船に帰ろう
いいけど

私
クロタを
つれて
行きたい

んっ

おっ
いたぞ
あらっ
寝てる

何だ？
岩に絵が
描いてあるぞ

クロタが……
描いたんだ！

あの絵はいったい？
あれは
たぶん

心の瞳が
まんまるだった頃の私…

上田城

よーし
皆の衆

ここの地を
上田の町に
しよう

オーッ

おーい
みんな
やってるかー

あっ

くここ
ぐーーっ

ちょっと
アンタたち
お城作り
どうしたの？

…おっ…
ミマナ殿

石が重くて
ぜんぜん進まないのだ

こんな怠け猫じゃあ
ニャン年たっても出来しまヘンデェ

何〜んだ口ばっかりの三流傀儡器か
無礼だぞ猫侍!!
ハ〜ッ
オレならばアッと言う間に城の1つ造れるぜ

フフン
そんなら造ってもらおうか

オレはお前らの家来じゃない
オレに命令できるのは御主人様だけサ

そんなら…

オレが御主人様になってやろう
えっ
ミマナ殿
この傀儡器をワシにゆずってくれそなたの言い値で

タダであげるよ

何が「そなたの言い値」だっバカ猫めっ オレは高価なんだぞっ
それにっミマナ船長が手放す訳がない

タッ

船長〜ッ発言を撤回して下さいーっ
も〜っシャブ油を飲んだりしませんから〜っ
お前の「もーしません」を聞かずにすむ

今の時刻をもって
ギンドリの所有権は
ミマナより
幸村殿に
移行したことを
宣言する
そんな〜っ

よ〜し お前は
足軽じゃーっ
不条理千万

それじゃあ
さっそく
上田城を
作ってもらおう
甚八
設計図をみせてやれ

ホウ…

ホントに
出来るの
かなあ

できる訳ないよ
あいつ信用性ないぞ
寝首をかく臭いがプンプンだもんなあ
ようしオレ様の恐ろしさを見せてやるぜ
アッアーッ
ううっ
何だこの声は
声の震動で岩石をコントロールするのだよ
すごいっ
アアッ
ズッゴゴッ
アーッ
おおっ

UEDA
あっぱれだぞ
ギンドリ
お〜っ

貴様
設計図と
違うじゃ
ないか
オレの美意識の
反映であるぞ
ワシは大いに
気に入った

万歳っ
城持ちだーっ
おい
ギンドリ
次は町だ
町を作れいっ

うっせえなっ
ちょっと
休ませろい
くっ

…まったく

クラゲ猫に
使われるなんて
……
オレって
不憫だなあ…

んっ
何だ
お前…

クロタ
クロタじゃねえか

ファア…
あいつ いつまで
サボってんだ

正当な休息を
サボリとは
悲しいぜ
よーし
ギンドリ
町を作れい

アーー
おおっ

かっこえ〜っ

エーッ
そのために
「まき餌」として
ミマナ船長にも
住んでもらいましょう
!
よーし
私が住民
第一号ね
あっ
ゲッ
うすバカ船長が
向かいかあ
ギンドリッ
言葉を
つつしまないと
破壊暗号を
読むよっ
しかし
どうやったら
住民が
来るかなあ
魅力的な
町にしていけば
来るんじゃないの?
翌朝

あら
わー

うははは
スゴイスゴイ
よーこそ上田の町へ

皆の衆
ワシが上田城城主真田幸村であるぞ

うっさい
な〜っ

判ったから
アッチに
行けよォ

へっ

殿ーっ

こいつら
みんな
ダラケた奴ばっかり
ですぞーっ

そーそーっ
住んでくれただけで
ワシは満足じゃ
そんな気持ちじゃ
家康殿に飲まれて
しまいますぞ

…しかし
どうして
怠け者と
子供たちしか
集まってこないんだ
ろう？
妙だよねえ
んっ…ひょっとして
ギンドリの奴!!

おい貴様っ
この町を作る時
何かしかけたろう
ヤメロ こらっ
何にも
してねーぜ

何なの
コレ？

初めて
見るのに…

なんだか懐かしい…
火の用心
マッチ1本火事の元ーっ
ねーさんアイロン気をつけてーっ
火の用心

私の時刻

父さん
タバコに
気をつけてーっ

火の用心

母さん
カマドに
気をつけてーっ

子供の火遊び
やめましょー

何なのだ
この行進は？

「カマド」とか
「アイロン」とか
謎の言葉を
叫んでるぞ

「カマド」とは
昔　ご飯を炊く時に
火を燃やした場所
ですが……

「アイロン」は
謎ですな

「アイロン」って
食べ物じゃないか
甘いお菓子のような

アイロンが食い物だなんて考える殿様がいるようじゃ
この町も長いことないな
んっ!!

ギンドリ貴様「アイロン」の意味が解るのか

「アイロン」とは洗濯物のシワを伸ばす器具ジャヨ
オレは何でも知ってるノジャ

ねえギンドリ子供たちがやってる「火の用心の行進」っていったい何なの?
オレを売り渡した女の質問には答えねえぜ
ウダウダ言わないで答えろっ

ヘエヘエ
…検索中…

「地球・日本国で
1950年代から
65年程まで
大火のあった都市などで
子供たちによって　毎日
夕暮れに行われていた
行事」

ホーオ

どうして見たこともない
そんな遠い時代のことが
懐かしいんだろう

何じゃコリャ？

火山だろ しかもドア付きだ

クロタ

うるさいなあ
気持ち良いんだから静かにしてよ
そーそーっ
気持ち良い？
ウム
こらあ確かにエー気持ち
ホントだ
不思議なホワホワとした…
カチ
カチ

ああ

火の用心

火の用心

前から4人目の女の子…

記憶の因子!!

私の遠い先祖の記憶なのか…

午後3時12分

午後3時12分

今 魚の群れが
浮かんできて
午後3時21分と
叫んでいたぞ
どういう
ことなんだ?

3時21分!?
コラ 寝たふりなど
しないで返答せい
パフッ
パフッ

まったくもう
訳の解らん猫だ

しかし甚八
いいなあ
魚の群れを
見たのかあ

殿は何を見たん
ですか?

別に何も見なかったぞ
たーだ気持ちよかっただけさ

ねえ甚八君
貴方3時21分って言ってたでしょ
ええ

私はね3時12分って言われたのよ
えっ変だなあ魚は確か3時21分って

魚じゃなくて火の用心の子供たちに

火の用心の子供たち
何じゃそりゃ?

ミマナ船長
3時12分ったらあと15秒ですぜ
あと15秒
くーっ3時12分って何なんだあ
わくわく
クロタがささやいたんだよ
それが「貴方の時刻だ」って
ミマナ殿の時刻!?
3・2・1
12分だぞ
んっ
あっ
え?

ズズ

噴火だ

山に煙など出とりゃセンぞ
ええ!? だってホラあんなに
ハア? 見えませんよ

煙上ってるじゃないか
昨日からずっと噴火してるぞ
ええ!? 殿までそんな!!

何も感知しまセン
これは完全な幻覚ですゼ
おふたりサン医者に行きな

馬鹿タレのいかれロボット
見えないのかこの煙ー
こんなにカッコいーー煙が馬鹿の機械めっ

ムッ

ガキども
発言を撤回しないと折檻光線をくらわすゼ

ああっ噴火だ
噴火してるぞ
何？

時刻は……
まさに3時21分

見てて飽きないそれにしても
何なんだこの煙…!?
翌日
おお

お待ちかねの3時12分ですぞ
ああっ始まった!!

…そうか!!
「私の時刻」って
歳月の中で私の中に堆積した意識が

ドッ
吹き飛ぶ時刻なんだ

校長刑（こうちょうけい）

変だなあ
あれ

三好何やってるんだ？
ああ殿っ
道に迷ったんですよ

行けども行けども
殿の部屋にたどりつけなくて

実はワシも部屋にもどれんのじゃ

え～っ殿も!!
ウム
ああ良かった

おお
ミマナ殿
どうなってんの
この城の通路

ギンドリの野郎が
迷路のような
道を作ったんだ

迷路どころじゃ
ないわよ
ト
ホラ　ここの壁なんか
昨日まで
なかったよ

ああっ
そういえば
そうだな

何でこんな所に
壁が出来てるんだ
幸村くん
離れてみて

ビッ
あっ通路だぞ

んっ

下がれ 下郎ども
お目通りは
かなわぬぜ

殿 こやつ
謀反で
ござるぞ
ああ
いわゆる
「下克上」という
やつですな
ギンドリ
アンタって
どこへ行っても
裏切りしか
できないのね
やかましい
オレが作った城を
オレの物にしただけの
ことだぜ
この
イカレた傀儡器め
オレが
解体してやる
ようし
ブチのめせっ
ぬははっ そんな
原始的な武器で
オレを解体するだと

どりゃーっ

ヘッ

うう
ブチのめす
相手はオレじゃ
ないぜ
ツツエラムロ

うわっ
体が
勝手にーっ

わーっ
ゴメンーッ
ギンドリ
ふたりを解放しろ
しないと
お前の破壊暗号を
読むぞ

読みたきゃ
読みな

何だと?

「A53・K29」って
やつか

どうだね
ミマナ君

あっ

お前 アンドロイド機能など
内蔵してなかったのに!?
オレが
改造した
のだよ

上田の町は
すでに
オレ様の
ものだが
集まっているのは
ガキと怠け者ばかり
みんな幸村のせいだ

何だと
コノヤロ

あっ

西の山から
煙がっ

シューーッ

この町は
私が造った
世界なんだよ
ギンドリ
何だ
あの煙は？

だらけて
身勝手な者どもへ
教育的な
「校長刑」を
執行したのさ

校長刑？

たっぷり
味わいたまえ
あっ
微塵化機能まで
…うっ
コン

くそう
ギンドリの野郎
どこに行ったっ
校長刑って
何だろ？
ええっ
町へ行ってみよう

すごい
粉塵だな
あれっ

何やってんだ
ろう？

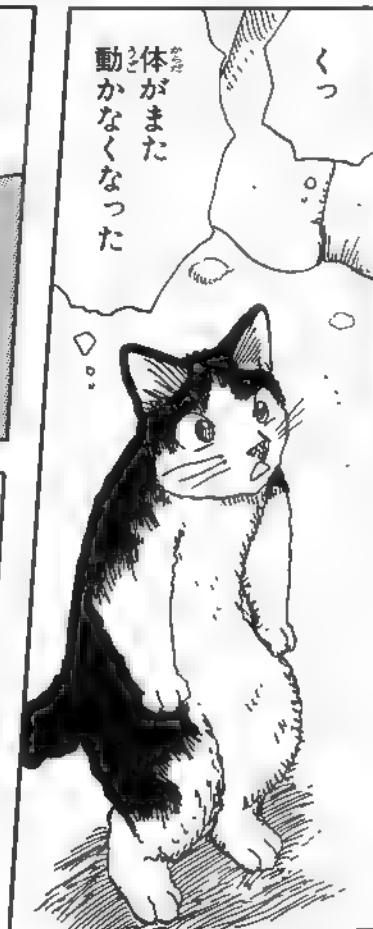
おい
甚八
何やってんだ

変だなあ
ワシのことが
見えない
みたいだぞ
何だか
ムッとしてる
ねえ

ううっ
あれっ

何よ
コレ
体が…

くっ
体がまた
動かなくなった

あっ

え〜っ 私がこの学校の校長のゴロメラです
この学校の誇りを胸にのほほれの将来という面から
そろめの希望というものをめめしれましてすすけんですが
ひとりひとりのちったやもっそれがんきえ
何だこれ!!
生徒としての自覚を持ってほれもんどげすようなことを決して行ってはしらばれるわけで
ああ…

選択というものに
対してのノッホリ
ノッホリはまことに
ゆゆしき
ベッタラづけだと

くっすお～っ
何言ってんだ
このオヤジ

「校長刑」って

校長の話を延々と
聞かされることなのか

自分の気持ちで
話していないからだ

異空に行けば・記憶の星

ますむらひろし

「惑星ミマナ」は、ずっと昔、一話だけ描いてそれっきりだったものが、突然頭のなかに浮上して、始まったのだった。どこかの惑星に、自分しか居ないとしたら、結局そこで広がり出すのは、記憶の噴出のような気がした。この作品は一九九七年からの三年弱の期間に描かれ、それは当時の環境の記録でもある。

僕には二人の子供がいるが、この時期は十三歳と十一歳で、まさに幼児から少年少女へ成長していく季節にさしかかっていた。家のなかにたくさん産まれていた二人が描いた絵。こうした絵の素晴らしさがどんどん失われ、絵を描くことの楽しさから卒業していく風景を見ながら、いろんなことを感じた。第六話に登場するクロタという猫は、娘が描いた我が家の飼い猫ク

シロである。クロタと作品名をつけたが、ひとコマにクシロと書いてしまい、これも記念と修正しないでおいた。このような絵、大人になるととても描けない。しかも、なんともタマラナク素晴らしい。第四話のキツネの絵は、息子が小学校の授業で描いた「雪渡り」から、いただいたのだが、このキツネもいい味だ。

幼児性や原始性を、切り取っていくことが、成長する宿命のように思いながら育ってきたが、絵画の世界を見渡すと、そうした感覚がいかに大切なのかに気づく。だがこうした感受性を、小中学校の美術の時間にも、はぎ取られていった気がしてならない。ゴッホの絵を授業で持ち出し、ゴッホが放つ原始性を本気で讃えようとすれば、教育制度がもっているものと矛盾が起こるのだ。かつてナチが堕落美術と決めつけて、いろんな絵画を焼いたように、今の学校教育がピカソやゴッホの放つ原始性を受け入れる気持ちの無いことを認めて、非行美術とでも呼び、教科書から排除した方がスッキリする。

なにしろ僕は中学時代、ゴッホなんか大嫌いで気持ちが悪か

った。それはゴッホじゃない世界が、成長することだと教えている教室にいたからだ。二十歳すぎてから、やっとゴッホってシビレルと感じられたのは、自分が教室で習ってきた一切の外側に出たいという気持ちで、生きようと思ったからだ。こうしたこの国のオシカナ調教によって、子供は日本人らしく、顔の無い成長をしていく。そしてポツンと残った子供たちの絵画を見ながら、感じたことを僕は描いていったのだ。

子供の頃から、落ち着きの無い子だった僕は、よく全校集会の時、校長や教頭の長い話に耐えられず、壇の上に座らせられたりして、木曜の朝が嫌だったものだが、ある入学式で、何十年ぶりに校長の長い話を聞いて、気が狂いそうになるくらい、イライラした。話がつまらなく、しかも長い。そして悶々としながら思った。「ああ、昔の僕は、間違っていなかった。あの頃これが苦痛なのは、僕が我慢する力が無いと思っていたが。」

こうして、第十話は「校長刑」となった。

生きることは、この校長刑の人生から、どうやって逃げ出すか、なのだ。

POPLARコミックス・Azone

惑星ミマナ①

2002年6月　第1刷
2002年7月　第2刷

作者　ますむらひろし

発行者　坂井宏先

編集　榎本司郎

発行所　株式会社ポプラ社

〒160-8565東京都新宿区須賀町5
振替00140-3-149271
☎03-3357-2216(編集)　☎03-3357-2213(営業)
☎03-3357-2211(受注センター)
FAX03-3359-2359(ご注文)
インターネットホームページ　http://www.poplar.co.jp

印刷・製本　図書印刷株式会社

N.D.C.726／167P／21cm
ISBN4-591-07285-1

＊作品のご感想、ますむら先生へのおたよりをおまちしています！

・〒160-8565東京都新宿区須賀町5　ポプラ社コミック編集部
・ファックス03-3357-3806　・メールアドレスhensyu@poplar.co.jp

・POPLARコミックスのニュースはホームページで！http://www.poplar.co.jp